

令和8年度 診療のご案内

Kitakyushu City Yahata Hospital



地方独立行政法人 北九州市立病院機構

北九州市立 八幡病院



基本理念

私たちは、24 時間 365 日、質の高い医療を提供し、皆様に、安心、信頼、満足していただける病院をめざします。

基本方針

- 1 医療の安全に万全を期し、科学的根拠に基づく、質の高い医療を提供します。
- 2 患者さんの生命の尊厳とプライバシーを守り、患者さん中心の医療を行います。
- 3 保健・福祉・医療機関と連携し、地域社会への積極的な医療貢献を果たします。
- 4 教育・研鑽に努め、専門的な知識、熟練した技能をもって、信頼と責任ある医療を提供します。
- 5 公共性、経済性を考慮した健全経営に努めます。

患者の権利と責務

北九州市立八幡病院では、安全・安心で患者さんに満足していただける医療を提供するために患者さんの基本的な権利を明確にして、これを尊重いたします。同時に守っていただきたい事柄についても責務として定め、ここに患者の権利と責務として掲示します。

患者の権利

- 1 人格、価値観など個人として尊重され、適切な医療を公平に受けることができます。
- 2 病気についてや検査・治療等について理解しやすい言葉や方法で、十分な説明と情報提供を受けることができます。
- 3 検査・治療について自らの意思で選択し同意、拒否をすることができます。
- 4 現在の検査や治療等について他の医師の意見(セカンドオピニオン)を求めることができます。
- 5 個人のプライバシーは守られ、医療上の個人情報保護は自分の診療記録の開示を求めることができます。

患者の責務

- 1 良質で安全な医療を実現するために、ご自身の健康に関する情報を正確に提供してください。
- 2 十分な説明と納得の上で、ご自身の治療に積極的に参加・協力してください。
- 3 他の患者さんの治療・療養環境に配慮し、病院職員の医療業務に支障を与えないように病院の規則や社会的マナーを守る責務があります。
- 4 適切な医療を維持していただくために、医療費を遅滞なくお支払いください。

子どもの患者の権利

こども憲章

北九州市立八幡病院小児科では全ての子どもとそのご家族に安全・安心の医療を 24 時間 365 日提供するため子供の権利を明確にしてそれを尊重いたします。

- 1 子どもはひとりの人として一大切にされ幸せを望まれ思いやりのある医療を受けることができます。
- 2 子どもは医療の現場で最善の利益を得るように考えてもらう権利を有しています。
- 3 子どもが病気になった時には安心、安全な環境で心や体のケアを受けることができます。
- 4 子どもは入院中親や親の代わりになる人と出来うる限り一緒に過ごすことができます。
- 5 子どもは不当である(虐待、酷使、放任など)と思われる環境にいると判断された場合日常生活、福祉、医療において完全に守られる権利を有しています。
- 6 子どもは病気の事や病気を治す方法を年齢や理解力に合わせた方法で言葉や絵を使って病院スタッフから説明を受けることができます。
- 7 子どもは十分な説明を受けた上で自分の気持ちや希望や意見を言うことができ、希望通りにならなかった場合には説明してもらう権利を有しています。
- 8 子どもは病気や障害、貧富格差、能力などを理由に決して差別されず体や心を傷つける(苦痛を伴う検査など)全てのことに説明を受けそこから守られます。
- 9 子どもは自分の病気の事や自分が知られたくないことに関し勝手に誰かに言われない権利があります。
- 10 子どもは病気の時にも遊んだり勉強したり子供らしく生活する権利があります。
- 11 今だけでなく子どもが大人になっても病気や障害について寄り添える医療やケアを行うため継続的な連携を提示されます。

CONTENTS

病院長挨拶	3
幹部紹介	4
病院実績	5

診療科

一般外科	7
消化器外科	8
呼吸器外科	9
小児外科	10
乳腺外科	11
脳神経外科	12
整形外科・リハビリテーション科	13
形成外科	14
内科	15
呼吸器内科	16
循環器内科	17
小児総合医療センター	18
小児血液・腫瘍内科	20
泌尿器科	21
皮膚科	22
眼科	23
精神科	24
婦人科	25
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	26
放射線科	27
麻酔科	28
救急科	29
歯科	30
臨床検査科	31

専門医・資格認定等一覧

医師紹介	33
------------	----

院内センター

救命救急センター	42
小児救急センター	44
小児臨床超音波センター	45
消化器・肝臓病センター	46
災害外傷外科、外傷・形態修復・治療センター	47
小児睡眠時無呼吸センター	48

診療支援部

薬剤課	50
臨床検査技術課	51
放射線技術課	52
リハビリテーション技術課	53
栄養管理課	54
臨床工学課	55

看護部

看護部	57
-----------	----

地域医療連携室

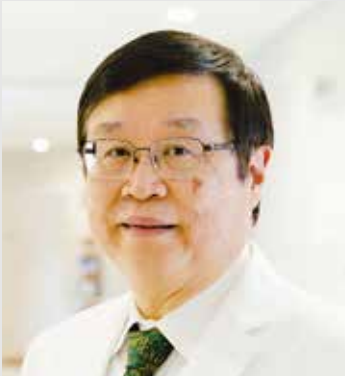
地域医療連携室	60
---------------	----

病院概要・フロアー図

令和8年度地域医療従事者研修プログラム

病院概要	63
フロアー図	65
令和8年度地域医療従事者研修プログラム	66

病院長挨拶



病院長

岡本 好司

おかもと こうじ

平素より北九州市立八幡病院の運営に格別のご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。また、日頃から患者さんのご紹介や救急患者さんの受け入れをはじめ、地域医療のさまざまな場面で当院と緊密に連携いただいておりますことに、地域の医師会ならびに産業医科大学病院をはじめとした医療機関の皆様へ深く感謝申し上げます。

このたび、令和8年度版「診療案内」をお届けいたします。本冊子が当院をご理解いただく一助となるとともに、先生方との連携をさらに深める契機となれば幸いです。

わが国では少子高齢化と人口減少が急速に進展し、医療を取り巻く環境は大きな転換期を迎えています。2040年頃には高齢者人口がピークを迎える一方、生産年齢人口はさらに減少し、医療・介護人材の確保はこれまで以上に困難になることが予想されています。こうした社会構造の変化は、単に医療需要の増減だけではなく、医療の提供体制そのものの変革を求めています。

私たちは、「病院が何でも担う医療」から、「地域全体で患者さんを支える医療」へと発想を転換しなければなりません。

地域医療構想が目指しているのは、病床機能の再編ではありません。それぞれの医療機関が自らの強みと役割を明確にし、互いを信頼しながら連携することで、地域全体として最適な医療を提供する仕組みを築くことです。その中心にあるのは、「患者さんにとって最もふさわしい医療を、最もふさわしい場所で提供する」という理念であると考えています。

北九州市立八幡病院は、救命救急センターを有する急性期病院として、「断らない救急」を基本姿勢に掲げ、24時間365日、重症・重篤な患者さんの受け入れに努めています。しかし現在、救急搬送患者さんの多くは高齢者であり、その背景には多疾患併存、認知症、フレイル、社会的孤立など、医学的課題だけでは解決できない複雑な問題があります。

高齢者救急に求められるのは、「救命」だけではありません。急性期治療を終えた後、どこで療養し、どのように生活へ戻るかまで見据えた支援が不可欠です。そのためには、急性期病院だけで完結する医療ではなく、かかりつけ医の先生方、回復期・慢性期病院、訪問診療、訪問看護、介護施設、地域包括支援センター、行政など、多職種・多機関による切れ目のない連携が何より重要になります。

急性期病院の役割は、必要な時に迅速かつ高度な医療を提供し、患者さんの状態が安定すれば、速やかに地域へお戻しすることです。一方、かかりつけ医の先生方には、患者さんの日常を最もよく理解する医師として、疾病管理だけではなく生活全体を支える重要な役割があります。この役割分担は、決して患者さんを「引き継ぐ」ことではなく、それぞれの専門性を生かして「ともに診る」ことにほかなりません。

当院は紹介患者さんを迅速に受け入れ、急性期治療終了後には積極的な逆紹介を行うことで、地域完結型医療の実践を進めています。紹介と逆紹介は病診連携の手続きではなく、地域の限られた医療資源を最大限に活用するための重要な仕組みであり、これからの地域医療を支える基盤であると考えています。

また、在宅医療の重要性は今後ますます高まります。住み慣れた地域や自宅で療養したいという患者さんやご家族の思いを実現するためには、在宅医療を担う先生方への支援も急性期病院の責務です。在宅療養中の急変時には迅速に受け入れ、治療後は安心して在宅へ戻る体制を整えることが、地域包括ケアシステムの中で当院に求められる役割であると認識しています。

さらに、近年頻発する自然災害や新興感染症への対応も、地域医療の大きな課題です。当院は災害拠点病院として、DMAT活動や災害訓練を継続するとともに、行政、消防、医師会、地域医療機関との連携体制の強化に取り組んでいます。有事に真価を発揮するのは、平時から築かれた信頼関係です。日頃から顔の見える連携を積み重ねることが、地域の医療を守る最も確かな備えになると考えています。

一方で、医療人材の不足や医師の働き方改革への対応は、全国共通の課題となっています。医療の質を維持しながら持続可能な医療提供体制を構築するためには、医師だけに負担を集中させるのではなく、多職種がそれぞれの専門性を十分に発揮できる体制づくりが不可欠です。当院ではタスクシフト・タスクシェアを推進し、教育・研修体制を充実させ、安全性と働きやすさを両立する組織づくりを進めています。

また、医療DXは単なる業務効率化ではありません。電子カルテ情報の共有、地域医療連携システム、AIを活用した診療支援、遠隔医療などの技術は、医療従事者の負担軽減と医療の質向上を同時に実現する可能性を持っています。今後は地域全体で情報を共有し、患者さんを中心に据えたシームレスな医療を提供できる環境づくりを進めることが重要です。

私は、これからの地域医療は「競争の時代」ではなく、「共創の時代」であると考えています。一つの病院だけで地域医療を支えることはできません。それぞれの医療機関が互いを尊重し、医療・介護・福祉・行政が一つのチームとなって地域住民を支えることこそが、持続可能な地域医療につながります。

北九州市立八幡病院は、これからも救急医療、災害医療、高度急性期医療の充実を図るとともに、地域医療支援病院として先生方との連携をさらに深め、「必要な患者さんを確実に受け入れ、適切な時期に地域へつなぐ」という使命を果たしてまいります。そして、地域の皆様が住み慣れたこの北九州で安心して暮らし続けられるよう、医療・介護・行政とともに地域包括ケアのさらなる発展に貢献していきたいと考えています。

本診療案内が、皆様との連携をより円滑にし、地域医療のさらなる発展につながる一助となれば幸いです。今後とも変わらぬご指導、ご支援、ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

幹部紹介



副院長
小児総合医療センター長
臨床研修センター長

天本 正乃

あまもと まさの



副院長
診療支援部長

岡部 聡

おかべ さとし



副院長
医療安全管理室長
外傷・形態修復・治療センター長

田崎 幸博

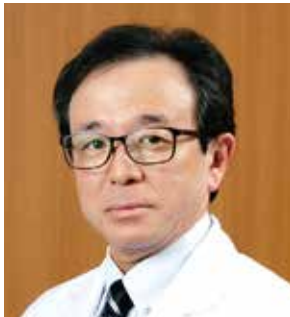
たさき ゆきひろ



統括部長

末永 章人

すえなが あきひと



統括部長
医療情報管理室長
ベッドコントロール室長

木戸川 秀生

きどがわ ひでお



統括部長

高野 健一

たかの けんいち



統括部長
地域医療連携室長

津田 有輝

つだ ゆき



統括部長
消化器・肝臓病センター長

野口 純也

のぐち じゅんや



看護部長

高瀬 真弓

たかせ まゆみ



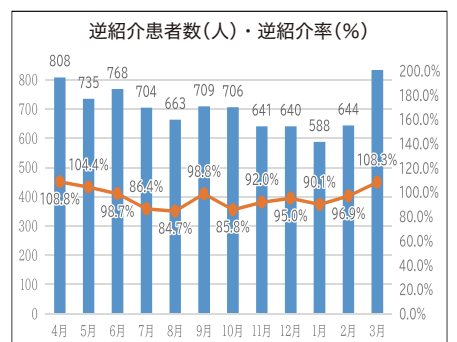
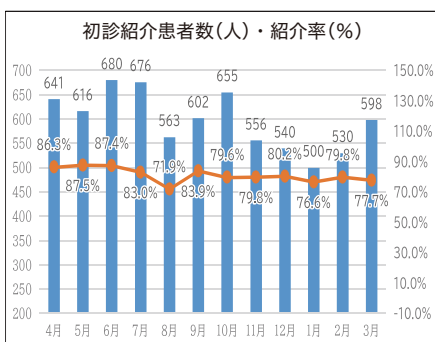
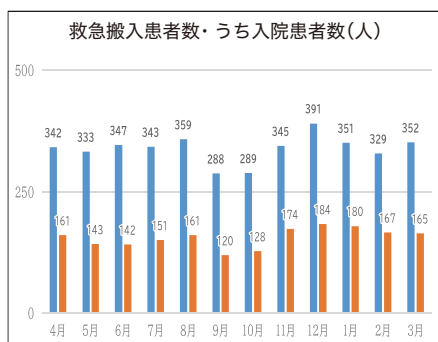
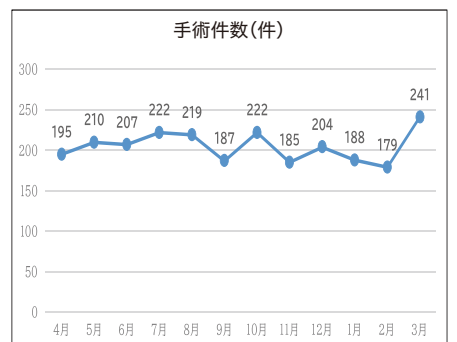
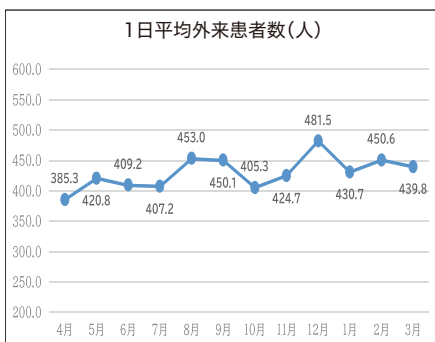
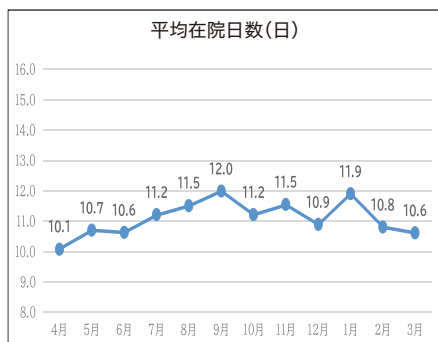
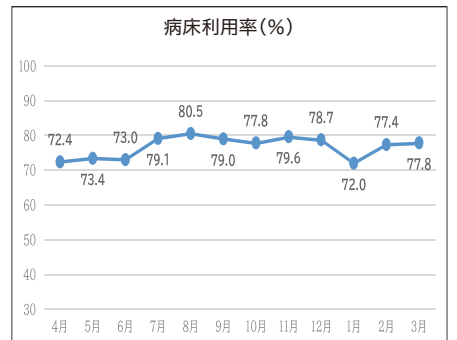
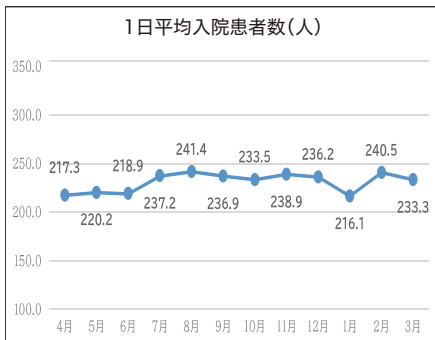
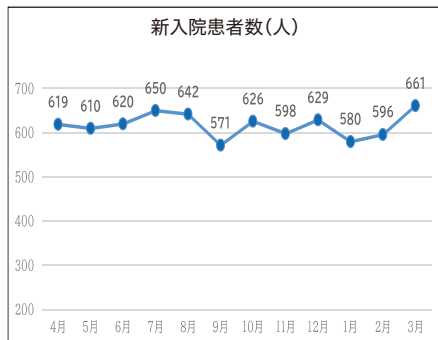
事務局長

瀬戸口 誠

せとぐち まこと

令和7年度 病院実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新入院患者数(人)	619	610	620	650	642	571	626	598	629	580	596	661
1日平均入院患者数(人)	217.3	220.2	218.9	237.2	241.4	236.9	233.5	238.9	236.2	216.1	240.5	233.3
病床稼働率(%)	72.4	73.4	73.0	79.1	80.5	79.0	77.8	79.6	78.7	72.0	77.4	77.8
平均在院日数(日)	10.1	10.7	10.6	11.2	11.5	12.0	11.2	11.5	10.9	11.9	10.8	10.6
1日平均外来患者数(人)	385.3	420.8	409.2	407.2	453.0	450.1	405.3	424.7	481.5	430.7	450.6	439.8
手術件数(件)	195	210	207	222	219	187	222	185	204	188	179	241
救急搬入患者数(人)	342	333	347	343	359	288	289	345	391	351	329	352
うち入院患者数(人)	161	143	142	151	161	120	128	174	184	180	167	165
初診紹介患者数(人)	641	616	680	676	563	602	655	556	540	500	530	598
紹介率(%)	86.3%	87.5%	87.4%	83.0%	71.9%	83.9%	79.6%	79.8%	80.2%	76.6%	79.8%	77.7%
逆紹介患者数(人)	808	735	768	704	663	709	706	641	640	588	644	833
逆紹介率(%)	108.8%	104.4%	98.7%	86.4%	84.7%	98.8%	85.8%	92.0%	95.0%	90.1%	96.9%	108.3%



診療科

一般外科

診療科の紹介

外科全体の本年度スタッフは、岡本好司 院長、木戸川秀生 統括部長、野口純也 統括部長、新山新 小児外科主任部長、井上征雄 救急科および呼吸器外科主任部長、山吉隆友 外科主任部長、上原智仁 消化器外科主任部長、又吉信貴 部長、沖本隆司 部長、久原一哲 医師、井上海 医師、松原詩歩 医師で構成しております。4月より産業医科大学より 久原、井上海が、久留米大学より 松原 が新たに赴任し、日々の診療を行うこととなりました。

診療科の特徴(強みや新たな取り組み等)

一般外科の疾患に加え、悪性疾患に対しては診断から治療、術後治療として抗癌剤を用いた化学療法なども胸腹部を問わず積極的に進めており、日本外科学会、消化器外科学会、呼吸器外科学会、小児外科学会の専門施設としての維持に加え、がん治療認定医機構における認定研修施設として認可されております。また、様々な救急・外傷疾患にも対応しており、外傷専門医研修認定施設、腹部救急医学会認定施設としても機能しております。消化器疾患では上部・下部の診断的内視鏡検査、消化管出血や腫瘍性狭窄に対する緊急内視鏡治療、肝胆道系緊急疾患に対する ERCP など消化器内視鏡学会専門施設としての幅広い治療も行っています。また、一般的な術後経過や敗血症、感染疾患に対しても厳格な術後管理を徹底しており、外科周術期感染管理教育施設としても認定され、日々の総合的研鑽による診療能力向上により皆様のお役に立てるよう日夜努力しております。

取り扱う主な疾患

消化器外科、肝胆膵外科、呼吸器外科、小児外科などの様々な領域に対し、良性疾患などの一般外科に加え悪性疾患に対する集学的治療はもちろんのこと、外傷や胸腹部緊急疾患に対する救急外科についても対処しております。診断、治療を含む上下部消化器内視鏡・ERCPやEUS等、他の施設ではみられない幅広い分野にわたる研鑽を行っていることが当科の大きな特徴であり、診療の基盤であります。

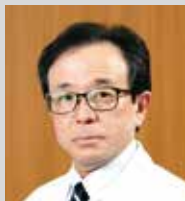
令和7年度 診療実績

診療科	主な臓器	主な疾患	2025年
消化器外科	食道・胃・十二指腸	食道癌	0
		潰瘍穿孔	3
		胃癌・腫瘍性疾患	17
		その他	5
	小腸・大腸・肛門	大腸癌・腫瘍性疾患	47
		イレウス	17
		小腸・大腸穿孔	6
		急性虫垂炎	27
		痔核・痔瘻・肛門疾患	32
		その他	11
		肝・胆・膵	胆石・総胆管結石
	肝癌・胆嚢癌・膵癌		25
	急性膵炎・その他		3
	ヘルニア		57
腹部外傷		4	
その他		11	
呼吸器外科	肺・縦隔	肺癌	2
		気胸・嚢胞型肺炎疾患	9
		膿胸・縦隔疾患	3
		多汗症	0
		その他	5
	乳腺・甲状腺	乳癌・甲状腺癌	4
	胸部外傷		0
	その他		4
14歳以下小児		ヘルニア	20
		急性虫垂炎	36
		新生児・外傷・その他	13
計			417
消化器外科	腹腔鏡下手術		262
呼吸器外科	胸腔鏡下手術		16
計			278
緊急手術			112
消化器手術			321
呼吸器手術			27
小児外科			69

スタッフ紹介



病院長
感染制御室長
消化器・肝臓病名誉センター長
岡本 好司
おかもと こうじ



統括部長
医療情報管理室長
ベッドコントロール室長
木戸川 秀生
きどがわ ひでお



統括部長
消化器・肝臓病センター長
野口 純也
のぐち じゅんや



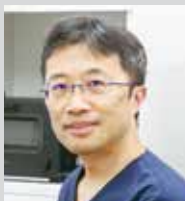
外科主任部長
山吉 隆友
やまよし たかとも



消化器外科主任部長
上原 智仁
うえはら としひと



小児外科主任部長
新山 新
しんやま しん



呼吸器外科主任部長
救急科主任部長
救命救急センター長
井上 征雄
いのうえ まさお



外科部長
又吉 信貴
またよし のぶたか



外科部長
沖本 隆司
おきもと たかし



外科副部長
久原 一哲
くはら かずのり



外科
井上 海
いのうえ かい



外科
松原 詩歩
まつばら しほ

消化器外科

診療科の紹介

消化器外科は10名の医師で診療を行っております。医師はそれぞれ、日本外科学会、日本消化器外科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会の各学会専門医・指導医や、日本肝胆膵外科学会高度技能指導医、日本内視鏡外科学会技術認定医、また日本救急医学会専門医・指導医、日本外傷学会専門医、日本癌治療学会教育医・認定医などの資格を有し、各専門分野での診療を行っております。

診療科の特徴・強み

当院は救命救急センターが併設されていることから、消化器外科で治療する疾患は消化器癌の治療のみならず、救急車で搬送される急性腹症や腹部外傷などが多いのも特徴です。麻酔科医と連携し、いつでも緊急手術が可能な体制をとっています。さらに、手術室内に血管造影とCT検査が同室でできるハイブリッドオペレーションルームがあり、外傷や出血性疾患などに対して、CTや血管造影を撮影しながらの手術や処置が可能です。また、消化器内視鏡専門医や肝臓学会専門医などの消化器内科系の資格を持った外科医師も多数おり、疾患の診断から治療までシームレスに対応を行うことができます。治療に際しては、患者さんが思い描く最良の結果を得られるよう、各疾患の診療ガイドラインなどをもとに、科学的根拠に基づいて手術や治療戦略を立てています。特に悪性疾患の患者さんには、不安を取り除くために、病気の程度や手術の内容、あるいは抗癌剤治療の内容や予定など、分かり易く説明を行うことを心掛けております。

取り扱う主な対象疾患

消化器外科としては胃癌、大腸癌、肝臓癌、胆道癌、膵臓癌等の消化器癌や胆嚢炎、虫垂炎、鼠径ヘルニア、痔核等の良性消化器疾患に対して積極的に手術に取り組んでいます。腹腔鏡下手術を消化器手術の8割以上で行っており、患者さんにより負担の少ない治療を目指しています。また消化管内視鏡治療も積極的に行っており、食道静脈瘤破裂、出血を伴う胃・十二指腸潰瘍や大腸憩室出血など消化管出血に対する上下部消化管内視鏡や、さらに急性胆管炎などの胆膵内視鏡にも対応しております。

スタッフ紹介



病院長
感染制御室長
消化器・肝臓病名誉センター長
岡本 好司
おかもと こうじ



統括部長
医療情報管理室長
ベッドコントロール室長
木戸川 秀生
きどがわ ひでお



統括部長
消化器・肝臓病センター長
野口 純也
のぐち じゅんや



外科主任部長
山吉 隆友
やまよし たかと



消化器外科主任部長
上原 智仁
うえはら としひと



外科部長
又吉 信貴
またよし のぶたか



外科部長
沖本 隆司
おきもと たかし



外科副部長
久原 一哲
くはら かずのり



外科
井上 海
いのうえ かい



外科
松原 詩歩
まつばら しほ

呼吸器外科

診療科の紹介

呼吸器外科認定医1名を軸に、消化器外科医や小児外科医と連携しながら、呼吸器外科症例の手術を行っています。

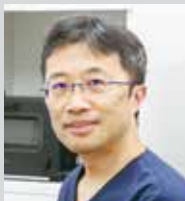
当科の特徴・強み

救命救急センターを併設している関係で、自然気胸や急性膿胸など緊急性を有する疾患が多く、胸部外傷含む多発外傷における、胸腔ドレナージ含めた全身管理も行っています。また、新病院移転に伴い新設されたハイブリッド手術室を使用して、術中触知困難な末梢肺病変に対するナビゲーション手術も近年導入しております。乳癌検診目的のマンモグラフィー検診も年々増加しています。肺がんや縦隔腫瘍に対しても、完全鏡視下手術も積極的に行っています。

取り扱う主な疾患

- 重症外傷、胸部外傷
- 気胸、膿胸など急性期疾患
- 肺癌、縦隔腫瘍

スタッフ紹介



呼吸器外科主任部長
救急科主任部長
救命救急センター長

井上 征雄
いのうえ まさお

小児外科

診療科の紹介

当院は、特色の一つに小児救急・小児総合医療センターを掲げています。北九州市だけでなく近隣の市町村を含めた北九州医療圏の小児医療を担っている施設と言っても過言ではありません。産科が併設されていないため新生児を取り扱う機会はめったにありませんが、外傷や急性期疾患、虐待など、外科的処置の必要な子ども達が大勢運ばれてきます。小児科医のみならず脳神経外科、形成外科、整形外科、泌尿器科と手を合わせて合同で診療に当たることが必要になります。その中で小児外科は、腹部や胸部の疾患に対応できるように心がけています。

診療科の特徴(強みや新たな取組み等)

常勤の小児外科医は1人のため、他科の様に“小児外科”独立で診療に当たることは困難であり、小児科医と一緒に診断・診療を行い、成人外科医とグループになって手術を行っているのが現状です。

当院は日本小児外科学会教育関連施設に認定されているため、大学へ手術応援を依頼することで高度先進医療手術を提供できる状況にあると考えています。小児外科を目指したいという若手医師の研鑽の場になれるよう、また研修医が小児外科に少しでも興味を持ってもらえる場になるようにする責務があると思います。

一方、当院が現在産科を休診しているためにNICUが併設されていません。そのためにどうしても新生児疾患に関しては、他の総合病院の小児外科に頼らざるを得ない状況が続いており、今後の課題として捉えていく必要があります。

小児外科は、今後も小児に携わる外科として他科と連携を保ちながら、また教育関連施設として教育にも務めながら安全な診療を心がけていきます。

取り扱う主な疾患

小児外科として、16歳未満の手術を年間約100件前後行っています。年間140件を超える時期もありましたが、少子化の影響からか減少傾向にあり最近100件を下回る傾向にあります。

小児(16歳未満)急性期疾患として最多は急性虫垂炎であり、平均50件程度ありましたが令和7年は40件でした。全例腹腔鏡下、しかも単孔での手術で完遂しています。その次に多い疾患は外鼠径ヘルニアで、20件から30件程度手術を行っています。

その他には、自然気胸や卵巣嚢腫・卵巣奇形腫、胆道拡張症手術、化学療法を行うための中心静脈カテーテル挿入術、などの手術症例があります。

16歳未満の小に限らず、16歳以上の重症心身障害児のお子さん達に対する気管切開術、喉頭気管分離術、胃瘻造設術などを行っています。

令和7年度 診療実績

	令和7年	令和6年	令和5年	令和4年	令和3年	令和2年	令和元年	平成30年	平成29年	平成28年	平成27年	平成26年
急性虫垂炎	40	40	49	57	61	51	44	70	65	69	64	65
鼠径ヘルニア	20	30	26	19	27	21	21	28	28	21	30	48
手術合計	85	97	100	119	142	93	117	144	129	115	111	123
内視鏡(鎮静下)	34	40	21	47	44	50	34	57	44	31	25	7

スタッフ紹介



小児外科主任部長

新山 新

しんやま しん

乳腺外科

診療科の紹介

乳腺外科は常勤医師2名と非常勤医師1名の3名体制で診療を行っています。乳腺疾患の診断・治療を幅広く行っており、乳がんと診断された場合は手術療法・薬物療法・放射線療法の組み合わせにより、個々の患者さんに最適の治療を提案いたします。診療には医師のみならず看護師・薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・リハビリテーション技士など複数の職種によるチーム医療体制を整え患者さんが安心して治療を受けていただけるよう努めています。

取り扱う主な疾患

- 乳房に何らかの自覚症状がある(しこり・ひきつれ・分泌物など)
- 他院で乳がん検診を受診し「要精密検査」「要再検査」と判定された

診療科の特徴

乳腺疾患の診断はマンモグラフィと乳房超音波検査が基本となります。マンモグラフィ装置はトモシンセシスという1mm毎の断層撮影が同時に撮れる装置を導入しており、従来の装置では正常乳腺に重なって発見や観察が難しかった病変が診断しやすくなっています。

他院で異常を指摘された場合、検診で要精査となった場合など、上記の検査以外にCT・MRIなども含めて当院で精密検査が出来ますので遠慮せず受診してください。



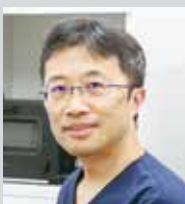
従来のマンモグラフィ撮影(2D撮影)に加え、最新のトモシンセシス機能(3Dマンモグラフィ)も搭載されています。撮影は女性技師が担当しています。

スタッフ紹介



病院長
感染制御室長
消化器・肝臓病名誉センター長

岡本 好司
おかもと こうじ



呼吸器外科主任部長
救急科主任部長
救命救急センター長

井上 征雄
いのうえ まさお



(非常勤医師)
乳腺外科

田上 貴之
たのうえ たかゆき

脳神経外科

診療科の紹介

当院の脳神経外科は昭和53年の開設以来、救命救急センターの要として機能してきました。現在も北九州の地域医療の一翼を担うため、脳卒中および頭部外傷救急を中心とした救急診療に24時間体制で取り組んでおります。

現在、常勤医師2名と非常勤医師にて診療に当たっております。超急性期治療や手術を必要とする脳卒中や、重症頭部外傷は、初期対応から診断、手術、治療に至るまで、専門医による対応を24時間体制で取っております。

診療科の特徴

【一次脳卒中センター(PSC)】

一次脳卒中センターとして24時間365日脳卒中患者を受け入れる体制を整備しています。脳梗塞の超急性期にはrt-PAを用いた血栓溶解療法を施行し、機械的血栓回収の適応がある場合には産業医科大学を始めとした近隣病院と連携して治療を行なっています。

【脳卒中の外科手術、ハイブリッド手術】

脳卒中の急性期治療から、脳卒中の発症を未然に予防すべく脳血管バイパス手術や脳動脈瘤クリッピング術、内頸動脈内膜剥離術などの脳血管の外科治療を安全に実施できます。高性能のMRIや最新鋭の256列のCT装置、3次元画像解析システムを活用して精度の高い診断、術前シミュレーションを行なうことで、安全で効率的な手術のプランニングが可能です。さらに脳血管造影検査やCT検査を手術中に実施できるハイブリッド手術室(HOR)が完備されており、難易度の高い脳血管外科手術を安全に行うことが可能です。

【重症頭部外傷に対する神経集中治療】

重症頭部外傷に対するICPセンサー(頭蓋内圧センサー)等を用いた神経集中治療が可能です。体幹部や四肢の多発外傷を伴う場合は、救急科や外科、整形外科、形成外科等と協力した集学的治療に努めています。

【術中神経モニタリング】

手術中に運動神経や運動中枢、聴力、脳幹のモニタリングを行うことでより安全な手術に努めています。

【片側顔面けいれん・三叉神経痛】

片側の顔面の筋肉が自分の意志とは関係なく(不随意に)ピクピクと動く顔面痙攣の診断、ボトックス治療、根治治療である神経血管減圧術を行うことができます。また、発作的な顔面の激しい痛みが特徴である三叉神経痛に対しても薬物治療、神経血管減圧術を行うことが可能です。

取り扱う主な対象疾患

■脳卒中全般：脳梗塞に対する超急性期再開通療法、脳出血、くも膜下出血、未破裂脳動脈瘤、脳動静脈奇形、内頸動脈狭窄症、頭蓋内動脈狭窄・閉塞症、もやもや病など。

■頭部外傷

■片側顔面痙攣、三叉神経痛

■その他：脳腫瘍、水頭症など。

スタッフ紹介



脳神経外科主任部長
高松 聖史郎
たかまつ せいしろう



脳神経外科部長
宮地 裕士
みやち ひろし

整形外科・リハビリテーション科

診療科の紹介

当院は、救命救急センターを併設していることから、重度外傷が多く、また小児救急・小児総合医療センターも併設していることから、小児の骨折症例が多いことが特徴といえます。このように当院の整形外科は救急医療とともに発展してきました。今後も、当院の使命である救命救急医療、小児救急医療、災害支援医療の一役割を担いながら、市立病院ならではの地域に根ざした、地域住民に貢献出来る医療を目指し診療を行って参ります。

診療科の特徴(強みや新たな取組み等)

これまで股・膝関節外科、手外科、外傷の各分野において、専門性の高い医療を提供してきました。令和7年度から、肩・肘関節外科を専門とする医師が新たに加わり、現在6名の整形外科医により質の高い医療を提供しております。また、麻酔科医の協力のもと、術後の痛みをできるだけ減らすよう努めています。

取り扱う主な対象疾患

【股・膝関節外科】

膝および股関節の変形性関節症に対する関節温存手術(寛骨臼回転骨切り術、高位脛骨骨切り術)や人工関節置換術を行っております。人工股関節置換術は、前外側アプローチによる最小侵襲手術(MIS)をバイオクリーンルームで行っています。軽度の変形性膝関節症の場合は、単顆人工関節置換術を行います。

【手外科】

手の外傷治療に加え、リウマチ手の機能再建、キーンベック病などの手根骨壊死、母指CM関節症などの変形性関節症、肘部管症候群や手根管症候群などの絞扼性末梢神経障害、腱鞘炎、デュピュイトラン拘縮、良性の骨軟部腫瘍など幅広い手術を行います。

【肩・肘関節外科】

腱板断裂、反復性肩関節脱臼、上腕骨外側上顆炎(テニス肘)などに対しては、関節鏡視下手術による低侵襲治療を積極的に実施しています。また、進行した変形性関節症や外傷後の機能障害に対しては、解剖型人工肩関節置換術、リバー型人工肩関節置換術、肘関節形成術などの再建手術も行います。

令和7年度 診療実績

令和7年度は、869件の手術を行いました。

(手術症例一覧は令和7年4月1日～令和8年3月31日の一年間の集計)

分野	症例・検査・手術	数(年間)
人工関節	人工関節置換術(肩・股・膝)	100
	人工骨頭挿入術(肩・股)	51
腫瘍	四肢軟部腫瘍摘出術	3
	骨腫瘍切除術	1
スポーツ	アキレス腱断裂手術	6
	関節鏡下肩腱板断裂手術(簡単なもの)	16
	関節鏡視下関節滑膜切除術(膝)	2
手外科	手根管開放術	32
	神経移行術	11
	神経剥離術	4
	腱鞘切開術	45
	腱縫合術	6
	腱移行術	5
	腱剥離術	1
	デュピイトラン拘縮手術	1
	ガングリオン摘出術	1
	神経縫合術	3
	関節形成術(手)	16
	外傷・その他	
外傷・その他	骨折経皮的鋼線刺入固定術	56
	骨折観血の手術	255
	観血的整復固定術(インプラント周囲骨折)	5
	骨内異物(挿入物を含む)除去術	95
	偽関節手術	3
	骨長調整術	2
	化膿性又は結核性関節炎掻爬術	3
	関節脱臼観血的整復術	1
	関節内骨折観血の手術	6
	観血的関節固定術(手、指)	5
上記以外		134
年間手術数		869

スタッフ紹介



副院長
診療支援部長
岡部 聡
おかべ さとし



整形外科主任部長
リハビリテーション科主任部長
目貫 邦隆
めぬき くにたか



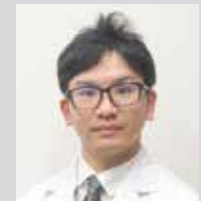
整形外科部長
田島 貴文
たじま たかふみ



整形外科部長
栗之丸 直朗
くりのまる なおあき



整形外科部長
大久保 友貴
おおくぼ ゆうき



整形外科副部長
藤崎 匠
ふじさき しょう

形成外科

診療科の紹介

当院形成外科は、九州内でもとくに早い昭和50年に開設され、顔面、四肢をはじめとした体表面の形態異常を整容的、機能的に改善する治療を行っております。

常勤医は3名(そのうち形成外科専門医2名)で診療を行っています。

当科では形成外科全般にわたる診療を行っています。とりわけ口唇口蓋裂治療においては全国的にみても症例数が多く、乳児の初期手術から中高年の2次手術まで対応できます。また、当院の救急や各科と連携し、顔面骨折を含む顔面外傷や、切断指再接合等の手の外傷、熱傷等を数多く担当しています。形成外科の専門的な対応を要する外傷や緊急を要する外傷などの場合は、平日時間外や休日でも対応しております。

診療科の特徴(強みや新たな取組み等)

令和2年より導入したVbeam II レーザーを用いた、毛細血管奇形(単純性血管腫)、乳児血管腫(莓状血管腫)、毛細血管拡張症といった皮膚良性血管病変の治療は件数が伸びてきました。小児、成人を問わず、紹介当日でも治療ができますので、お気軽にお問い合わせください。

口唇口蓋裂は、乳幼児期から青年期まで、各成長段階に必要な手術や治療を行ってきていますが、中高年の患者さんで旧来の手術法による変形が残っている方に、現在の新しい手術方法で整容的機能的な修正を行ない、長年の悩みを解消する効果が得られています。里帰り出産などで最初の口唇裂手術だけを希望される方や、すでに他院で手術を受けられており修正を希望される方も対応いたします。

取り扱う主な疾患

表在性先天異常

口唇口蓋裂、眼瞼下垂、眼瞼内反症、小耳症、副耳、埋没耳などの顔面形態異常、多指症・合指症などの四肢形態異常、臍ヘルニアなどの体幹部形態異常に対する治療を行っています。

皮膚・皮下・軟部腫瘍(良性、悪性)

皮膚腫瘍、皮下腫瘍、軟部腫瘍(良性、悪性)に対して手術やレーザーを用いた治療を行います。組織欠損のサイズや部位により、必要に応じて再建手術を行うことがあります。

顔面、手の外傷

顔面の皮膚、軟部組織損傷、骨折に対する処置、手術を行っています。また手指の外傷(骨折、血管、神経、腱損傷)に対する外科的処置、再建手術を行っています。また外傷や熱傷によって生じた傷跡や瘢痕拘縮に対して手術等の治療を行うことで整容的、機能的に改善します。

熱傷

小児を含めた熱傷患者に対して加療を行っています。軟膏や創傷

被覆材を用いた保存的加療や、必要に応じて手術治療(植皮術等)を行います。

難治性潰瘍

糖尿病患者の足潰瘍や下肢の虚血による潰瘍、静脈の機能不全によっておこる、うっ滞性皮膚潰瘍に対して治療を行っています。また褥瘡に対しても、軟膏療法、持続陰圧吸引療法を含めた保存的加療、皮弁手術を含めた外科的治療を行っています。

巻き爪治療(自費診療)

爪に専用の矯正装具である巻き爪マイスター®を装着する巻き爪治療を行っています。自費診療になりますが、巻き爪による痛みに悩む患者さんが楽になり通って来られています。

耳の矯正治療(自費診療)

生まれつきの耳の形態異常(折れ耳・絞扼耳・埋没耳など)に対して専用のイヤースプリントを用いた矯正治療を行っています。

その他

足趾の爪が食い込む陥入爪、加齢により目が開きにくくなる眼瞼下垂の治療を行っています。また、Qスイッチルビーレーザーによる色素斑の治療、炭酸ガスレーザーを用いた小手術を行っています。まぶたがひきつる眼瞼痙攣、顔の片側がびくびくする顔面けいれんに対してボトックス注射による治療を行っています。

ワキ汗(腋窩多汗症)にもボトックス注射による治療を行います。匂いが問題となる腋臭症(わきが)に対しては手術を行います。

令和7年 診療実績

年間の患者数及び手術件数

区 分	件 数						
	入院手術			外来手術			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
I. 外傷	64	14	37	1	46	447	609
II. 先天異常	165		5	2		11	183
III. 腫瘍	71	5	66	2		175	319
IV. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	8		3			10	21
V. 難治性潰瘍	20	1	11			3	35
VI. 炎症・変性疾患	23	6	10		8	22	69
VII. 美容(手術)							0
VIII. その他	6		40			2	48
Extra. レーザー治療	10					210	220
大分類計	367	26	172	5	54	880	1,504

スタッフ紹介



副院長
医療安全管理室長
外傷・形態修復・治療センター長
田崎 幸博
たさき ゆきひろ



形成外科主任部長
今村 慎伸
いまむら よしのぶ



形成外科副部長
古川 くるみ
ふるかわ

内科

診療科の紹介

外来は消化器・神経・腎臓・甲状腺・一般内科外来を設置しています。多くは非常勤医師で対応しておりますが、近隣の先生方からのご紹介に極力お応えできるよう、スタッフ一同努力してまいります。

また救命救急センターを併設しており、できる限り救急患者の受け入れを行っています。これからも、地域との連携を深め質の高い医療を提供できるよう頑張りたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

診療科の特徴(強みや新たな取り組み等)

主な検査・治療

■上下部消化管内視鏡

水曜日と木曜日の午後に非常勤医師により下部消化管検査を行っています。上部消化管内視鏡は月曜日から金曜日まで午前中に非常勤医師や消化器外科医師により行っています。また吐血などの緊急内視鏡については、ほぼいつでも対応できるようにしています。

■超音波検査

月曜日に、腹部エコー全般、体表エコー(頸部耳鼻科領域、甲状腺・副甲状腺、体表皮膚科領域)を行っています。非侵襲的な検査の代表です。小児から高齢の患者まで、状態の悪い場合も含めて検査できます。また、北九州の超音波検査の普及や高度化にも力を入れております。各医院でのスタッフ養成についてもお尋ね下さい。

■神経伝導速度・筋電図

しびれや筋萎縮などの原因を調べるために、電気刺激を用いて神経のどこが障害されているかを調べることができます。手根管症候群や肘部管症候群などの末梢神経障害が良い適応です。また、筋肉に直接針を刺して筋萎縮の原因を調べる針筋電図も行っています。

取り扱う主な対象疾患

■消化器内科

非常勤医7名にて消化器疾患の外来診療(平日午前中)と上下部消化管内視鏡検査を行っています。腹部超音波検査、腹部CT検査など適宜施行し、診断・加療を行っています。

■甲状腺

非常勤医師1名により、バセドウ病等の甲状腺疾患の外来診療を毎週月曜日に行っています。

■脳神経内科

中枢神経(脳・脊髄)から、末梢神経、筋肉に至るさまざまな病気を対象にしています。頭痛、しびれ、ふるえ、めまい、筋力低下などの診断・治療のほか、神経救急疾患(脳血管障害、脳炎、髄膜炎、ギランバレー症候群など)や、パーキンソン病をはじめとした神経難病についても診療に当たっています。

■腎臓内科

月、火、木の週3回腎臓内科の外来診療をしています。検診などで血尿や蛋白尿などの尿異常や、糖尿病性腎症、薬剤性腎障害、腎実質性高血圧、高尿酸血症など、腎臓病の保存期を中心に治療を行っています。当院では維持透析は行っておりませんので、末期腎不全に至った患者さんは適切な医療機関へご紹介いたします。また、重症例や腎生検診断が必要な場合、産業医科大学腎臓内科と連携していますのでご紹介いたします。腎生検診断後の治療継続は、当院でも副腎皮質ホルモンや免疫抑制剤などによる治療が可能ですのでご紹介ください。

■膠原病

非常勤医師1名で毎週金曜日に外来診療を行っています。関節リウマチをはじめとした膠原病を広く診療しています。多系統領域にまたがる疾患ですので、当院の複数の専門科と協力しながら診療を行っています。重症例は、産業医大第一内科と連携して治療を行います。膠原病の病初期の判断は困難なことが多いのですが、この時期の治療の重要性も確認されています。疑わしい症例は、ご遠慮なくご紹介下さい。

スタッフ紹介



統括部長
内科主任部長
末永 章人
すえなが あきひと



内科
宮崎 三枝子
みやざき みえこ

呼吸器内科

診療科の紹介

当科では、すべての患者さんに「呼吸器内科というサブスペシャリティを持つ内科医」として、可能な限り幅広く、そして奥深く診療することを目標に診療を行っております。常勤医3名、非常勤医師6名体制で診療を行っており、外来は月曜日から金曜日の毎日午前に呼吸器専門外来を開催しております。紹介患者さんに付きましては、早急に対応する為に、事前に紹介状を頂ければ幸いです。また当院は救命救急センターを併設しておりますので、呼吸器緊急疾患に対して、24時間対応できる体制を整えております。呼吸器疾患生命にかかわる場面が多く、迅速に対応することが必要とされますので、緊急の際はお気軽にお電話を頂ければ対応致します。北九州及び八幡地域の患者さん・医療機関の先生方の信用・信頼を得られるよう、一同力を合わせより良い医療を提供すべく努力を積み重ねてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

診療科の特徴(強みや新たな取り組み等)

呼吸器内科は常勤医3名と非常勤医6名の計9名で診療しています。当院の救急病院としての特色を活かし、新型コロナウイルス感染症を含む呼吸器感染症・気管支喘息・COPD(慢性閉塞性肺疾患)・間質性肺炎を中心に急性呼吸不全及び慢性呼吸不全の急性増悪などの救急患者に対応しています。

肺癌診療に関しては、気管支鏡指導医の下、肺生検、縦隔リンパ節生検、胸腔鏡検査による肺癌診断を行うと共に、抗がん剤治療・外科的治療に関しても積極的に取り組んでおります。放射線治療など当院で提供困難な治療が必要な場合は、北九州医療センターと連携しておりますのでご紹介いたします。

重症気管支喘息に対しては生物学的製剤による治療を行っており、重症喘息でお悩みの患者さんがおりましたら、早めにご紹介頂ければ幸いです。

慢性期管理では、慢性呼吸不全に対しての在宅酸素療法の導入に加えて、薬剤師・看護師・理学作業言語療法士・MSWを含めた多職種連携による外来・入院における呼吸器リハビリや、近年では呼吸器診療に欠かすことのできない吸入薬に対する患者指導も積極的に行っています。

また睡眠時無呼吸症候群に対しての終夜睡眠ポリグラフ検査及びCPAP療法の導入にも対応しております。当院では急性期から慢性期まで幅広い呼吸器診療を心がけています。

令和7年度 診療実績

項目	実績数(名)	1日平均患者数
外来患者数	4,107	16.9
入院患者延べ数	8,294	22.7

主な検査

＜気管支鏡検査＞

気管支内視鏡関連認定施設として、気管・気管支病変及び肺内病変に対して、年間100例程度の気管支鏡検査を行っております。ほぼ全例鎮静薬の投与下に検査を行うことによって苦痛をできる限り与えないように心がけています。原則1泊2日の入院で検査を行っています。

主に腫瘍性病変に対しての経気管支肺生検・擦過細胞診、びまん性肺疾患に対しての気管支肺胞洗浄検査などを行っています。また適応症例に対しての気管支充填剤(EWS)の留置なども行っており幅広い疾患に対応しています。オリンパス社製の最新ビデオスコープ(290シリーズ)及び超音波システム(ガイドシース併用気管支内腔超音波断層法)が導入されており優れた診断精度での検査が提供できるよう努めています。コンベックス走査式超音波気管支鏡(BF-UC290F)を導入したことにより縦隔リンパ節を含めた気管支周辺組織の超音波気管支鏡下吸引針生検(EBUS-TBNA)が実施可能となり、気管支鏡検査における適応疾患がさらに拡大しています。

＜局所麻酔下胸腔鏡検査＞

一般的な胸水検査では診断をつけることが出来ない胸水に対して局所麻酔下での胸腔鏡検査を施行しています。胸腔内の観察及び壁側胸膜の生検・細胞診を行うことにより原因診断を行っています。主に癌性胸膜炎・悪性胸膜中皮腫・結核性胸膜炎などの診断に有用です。

＜終夜睡眠ポリグラフ検査＞

毎週水曜日に1泊2日の個室入院により終夜睡眠ポリグラフ検査を行っています。睡眠時無呼吸などの睡眠障害に対する精密検査を行います。検査目的の紹介は内科外来にて随時受け付けています。

取り扱う主な対象疾患

- 呼吸器感染症(新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、急性気管支炎、市中肺炎、医療・介護関連肺炎、院内肺炎、肺膿瘍、肺結核、肺非結核性抗酸菌症、肺真菌症)
- 慢性閉塞性肺疾患(肺気腫、慢性気管支炎)
- アレルギー・免疫疾患(気管支喘息、アレルギー性気管支肺アスペルギルス症、サルコイドーシス、ANCA関連血管炎、過敏性肺炎、好酸球性肺炎)
- 間質性肺疾患(特発性間質性肺炎：特発性肺線維症、特発性非特異性間質性肺炎、特発性器質化肺炎など・膠原病関連間質性肺炎・薬剤性肺炎)
- 肺腫瘍(原発性肺癌、転移性肺腫瘍、肺良性腫瘍、胸膜中皮腫、縦隔腫瘍)
- 胸膜疾患(胸膜炎、胸水、膿胸、気胸)
- 慢性咳嗽(咳喘息、アトピー咳嗽、後鼻漏、喉頭アレルギー)
- 呼吸不全(1型・2型呼吸不全、結核後遺症、在宅酸素療法、非侵襲的陽圧換気)
- 職業性肺疾患(じん肺、石綿肺)
- 睡眠時無呼吸症候群
など

スタッフ紹介



呼吸器内科主任部長
森 雄亮
もり ゆうすけ



呼吸器内科副部長
長澤 大賀
ながさわ たいが



呼吸器内科
浅井 夏輝
あさい なつき

循環器内科

診療科の紹介

当科では、すべての循環器疾患において「患者さんに科学的根拠に基づく質の高い最善の医療を安全に提供する」ことを第一に掲げ、循環器内科全体での知識や技術のアップデートに努めています。地域住民や近隣の医療機関の皆様へ信頼して頂けるような医療を安全かつスピーディーに提供していきたいと考えています。

診療科の特徴

常勤医3名いずれも循環器専門医を有しており幅広く診療を行っております。なかでも令和7年5月からは頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーションを本格的に開始し、本年度中の不整脈専門医研修施設の申請を目指しているところです。

当科では、カテーテル治療やデバイス治療などの専門的治療に加え、心不全の再発予防を見据えた生活指導、薬物治療、心臓リハビリテーションにも力を入れています。担当医のみならず、看護師、理学療法士、薬剤師を含む多職種が密に連携し、一人ひとりの患者さんに最適な医療を提供できるよう努めています。

循環器疾患には長期的な管理を要する患者さんが多いため、近隣医療機関の先生方とのさらなる連携強化に取り組んでまいりたいと考えております。

取り扱う主な疾患

- 心不全(急性・慢性)
- 冠動脈疾患(狭心症、急性・陳旧性心筋梗塞)
- 心筋疾患(肥大型心筋症、拡張型心筋症、二次性心筋症(心アミロイドーシス、心サルコイドーシス、ファブリー病))
- 弁膜症(大動脈弁狭窄症、大動脈弁閉鎖不全症、僧帽弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全症)
- 不整脈(心房粗動・細動、徐脈性・頻脈性不整脈、期外収縮)
- 大動脈疾患(胸部・腹部大動脈瘤、大動脈解離)
- 末梢動・静脈疾患(閉塞性動脈硬化症、腎動脈狭窄症、深部静脈血栓症)
- 肺循環疾患(急性肺血栓塞栓症、慢性血栓塞栓性肺高血圧症)
- 高血圧症(二次性高血圧症)や脂質異常症(家族性高コレステロール血症)

など

令和7年度 診療実績

■期間：令和7年度(4月～3月)

(名)

項目	総数
外来受診総数(1日あたり平均数)	2,667(11.0)
入院総数(1日あたり平均数)	7,332(20.1)
心不全入院患者数	

項目	総数
心臓カテーテル検査	120
冠動脈カテーテル治療()は緊急症例	50(13)
ペースメーカー植え込み術()は電池交換術	23(5)
カテーテルアブレーション	27
植え込み型心電計	1
末梢動脈カテーテル治療	1
腎動脈ステント治療	0
心筋生検	0
下大静脈フィルター留置	3

項目	総単位数
入院心臓リハビリ単位数(1月あたり単位数)	4319(360)
外来心臓リハビリ単位数(1月あたり単位数)	868(72)
心臓リハビリ総単位数(1月あたり単位数)	5187(432)

スタッフ紹介



統括部長
地域医療連携室長
津田 有輝
つだ ゆき



循環器内科主任部長
大江 学治
おおえ ひさはる



循環器内科部長
屏 壮史
へい そうし

小児総合医療センター

診療科の紹介

当センターは平日日中の一般診療及び各種小児専門医療を行う地域の、福岡県北九州地域、および近隣市町村地区における小児救急センターとして位置づけられています。北九州地区の広域の子どものあらゆる救急医療に対応するため、あらゆる他科と協力体制を有し、1次から3次までの救急患者を24時間365日受け入れる体制を維持しています。児童虐待防止医療ネットワーク事業拠点病院でもあり、児童虐待の早期発見・早期加入と予防可能な事故の減少を目指します。

診療科の特徴(強みや新たな取組み等)

小児総合医療センターの特徴

- ①県内随一の豊富な症例により経験を積んだ子どもの総合医が診療
- ②多彩な専門領域による迅速な診断と最良の治療の提供：
臨床超音波、血液・腫瘍、遺伝、発達、循環器
アレルギー、腎臓 他
- ③24時間365日対応可能な小児救急センター
全ての子どもを受け入れます。
- ④虐待拠点病院としての役割と地域支援体制の充実
多機関連携による家族と子ども支援委員会の活動

取り扱う主な疾患

■小児一般

各種感染症、腸重積症、急性虫垂炎、熱性けいれん、身体各部の外傷など

■アレルギー

食物アレルギー、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、慢性蕁麻疹、薬剤アレルギーなど

■腎臓

検尿異常、ネフローゼ症候群、腎炎、尿路感染症、先天性腎尿路異常、高血圧症、糖尿病など

■循環器

川崎病、不整脈、先天性心疾患(カテーテル治療や手術が必要な症例は他院へ紹介しております)、心筋症など

■内分泌

成長障害、甲状腺疾患など

令和7年度 診療実績

小児科専門医数名	19名
認定指導医数名	10名
他施設からの受け入れ研修医数	16名
産業医科大学病院	2名
製鉄記念八幡病院	7名
戸畑共立病院	2名
福岡新水巻病院	3名
健和会大手町病院	2名
小児科年間外来数	39,581名
小児科年間入院数	19,283名
夜間・休日受診者数	20,052人
夜間・休日入院者数	1,119人
小児科救急車台数	1,016台

スタッフ紹介



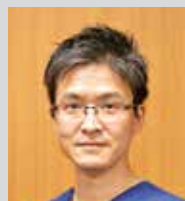
副院長
小児総合医療センター長
臨床研修センター長
天本 正乃
あまもと まさの



統括部長
高野 健一
たかの けんいち



小児科主任部長
石橋 紳作
いしばし しんさく



小児科主任部長
小林 匡
こばやし まさし



小児科主任部長
小児血液・腫瘍内科主任部長
安井 昌博
やすい まさひろ



小児科主任部長
小児血液・腫瘍内科部長
本田 裕子
ほんだ ゆうこ

小児総合医療センター

スタッフ紹介



小児科部長
小児血液・腫瘍内科部長
稲垣 二郎
いながき じろう



小児科部長
富田 一郎
とみた いちろう



小児科部長
八坂 龍広
やさか たつひろ



小児科部長
小児臨床超音波センター長
小野 友輔
おの ゆうすけ



小児科部長
救急科部長
小児救急センター長
福政 宏司
ふくまさ ひろし



小児科部長
長嶺 伸治
ながみね しんじ



小児科部長
中野 慎也
なかの しんや



小児科部長
中野 珠菜
なかの たまな



小児科部長
藤崎 徹
ふじさき とおる



小児科部長
小児血液・腫瘍内科部長
松石 登志哉
まついし としや



小児科部長
江口 啓意
えぐち ひろい



小児科部長
森吉 研輔
もりよし けんすけ



小児科部長
吉田 峻
よしだ しゅん



小児科部長
朝長 星哉
ともなが せいや



小児科
今村 徳夫
いまむら のりお



小児科
村上 知恵
むらかみ ちえ



小児科
小野 佳代
おの かよ



小児科
沖 剛
おき たけし



小児科フェロー
高橋 昂暉
たかはし ごうき



小児科フェロー
長井 保憲
ながい やすのり



小児科専攻医
戸谷 凌太
とたに りょうた



小児科専攻医
兵頭 美咲
ひょうどう みさき



小児科専攻医
杉之原 理衣
すぎのはら りえ



小児科専攻医
古賀 匡貴
こが まさき



小児科専攻医
中辻 由莉
なかつじ ゆり

小児血液・腫瘍内科

当科について

当院小児科において平成30年4月に小児がんを専門的に診療する、小児血液腫瘍・造血細胞移植センターが立ち上がり、令和3年4月より、小児血液・腫瘍内科を標榜しました。令和2年から新型コロナウイルス感染禍の影響を受けましたが、そのような中で当科は日本小児血液・がん学会、日本血液学会の専門医研修施設として認定されており、同学会や日本造血・免疫細胞療法学会(旧：日本造血細胞移植学会)の専門医や指導医資格をもつ4名の小児科医師を中心に診療を行っています。また、北九州市では2施設しかない日本輸血・細胞治療学会の認定医制度指定研修施設のひとつとしても認定されており、令和4年12月には骨髓バンクドナーからの骨髓採取も行っています。令和3年には本院で初めての血縁者間骨髓移植を施行し、現在は非血縁者間骨髓・末梢血幹細胞移植および臍帯血移植の施設認定も受け、これらの造血細胞移植も施行可能となっています。

小児がんは致死性の疾患であると同時に希少疾患です。その治療法に関しては標準治療として確立されている治療法や患者さんへの利益が大きいと考えられる臨床試験での治療参加など、疾患の種類や病期によって最も適切な治療法を選択しています。再発・難治性の患者さんに対しては、適応を慎重に判断したうえで造血細胞移植を行っています。

小児がんの患者さんは、抗がん剤や免疫抑制剤の治療により容易に免疫不全状態に陥り、重要感染症を発症するリスクを負いますが、当センターでは小児科病棟内の10床の個室からなる清浄度の高いprotective environment(防護環境、慣例的にクリーンエリアと呼んでいます)内で化学療法を行っています。そのうちの2床は、白血球数や免疫機能が極度に低下する造血細胞移植に対応した規格になっています。

小児がんの治療は、入院期間も長く長期にわたり、様々な身体的・精神的苦痛や社会的困難が伴います。当科では、患者さんご家族の負担を少しでも軽減できるよう、医師、看護師だけではなく薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、臨床工学技士、管理栄養士、社会福祉士、保育士、臨床心理士、子ども療養支援士、院内学級講師、その他の多くのスタッフと協力してチーム医療を行っています。

当科の沿革

- 平成30年4月:「日本小児血液・がん学会専門医研修施設」に認定
- 平成30年12月:新病院小児科病棟内に protective environment (通称クリーンエリア) 開設
- 令和元年6月:第1例目の造血細胞移植(血縁者間末梢血幹細胞移植)施行
- 令和2年7月:「移植後長期フォローアップ外来」の開始(看護部による)
- 令和2年10月:「JCCG 小児固形腫瘍観察研究」参加
- 令和3年4月:北九州市立病院機構より「小児血液・腫瘍内科(血液・腫瘍科)」標榜の認可
- 令和3年4月:「日本血液学会専門医研修施設」および「日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設」に認定
- 令和4年12月:「日本骨髓バンク非血縁者間骨髓採取施設」に認定
- 令和5年3月:「日本骨髓バンクおよび日本臍帯血バンクを介した非血縁者間骨髓・末梢血幹細胞・臍帯血移植施設」に認定

造血細胞移植実施数

- 令和元年度: 血縁者間末梢血幹細胞移植2症例3回
- 令和2年度: 血縁者間末梢血幹細胞移植1症例1回
- 令和3年度: 血縁者間骨髓移植1症例1回
- 令和4年度: なし
- 令和5年度: 血縁者間骨髓移植1症例1回
- 令和6年度: なし
- 令和7年度: 血縁者間末梢血幹細胞移植1症例1回

移植施行6症例は令和8年3月31日時点で5例が無病生存で外来フォロー、1例が他院で再発死亡。

終わりに

令和4年12月末に日本骨髓バンクの非血縁者間骨髓採取施設の認定を受けました。また日本骨髓バンクを介した非血縁者間骨髓・末梢血幹細胞移植、および臍帯血バンクを介した非血縁者間臍帯血移植の施設認定も受けることができたためこれらの移植が可能となり難治性血液疾患の患者への治療選択肢が広がっています。24時間対応で血液・腫瘍性疾患に関してお困りであればいつでもご相談ください。

血液・腫瘍性疾患の診療実績

年度	化学療法、免疫抑制療法、手術を行った新規診断症例数	
令和2年	・急性リンパ性白血病	1例
	・急性骨髄性白血病	1例
	・固形腫瘍(神経芽腫・成熟奇形腫)	2例
令和3年	・急性リンパ性白血病	2例
	・固形腫瘍(脾充実性偽乳頭状腫瘍・未熟奇形腫)	2例
	・ランゲルハンス細胞組織球症	1例
令和4年	・固形腫瘍(滑膜肉腫・卵黄嚢腫瘍)	2例
	・ランゲルハンス細胞組織球症	1例
	・急性リンパ性白血病	1例
令和5年	・固形腫瘍(卵黄嚢腫瘍)	1例
	・急性リンパ性白血病	4例
令和6年	・急性リンパ性白血病	2例
	・急性骨髄性白血病	1例
	・固形腫瘍(脾充実性偽乳頭状腫瘍・未熟奇形腫)	3例
	・ランゲルハンス細胞組織球症	1例
令和7年	・急性リンパ性白血病	3例
	・固形腫瘍(神経芽腫・卵黄嚢腫瘍)	2例
	・ランゲルハンス細胞組織球症	2例

スタッフ紹介



小児血液・腫瘍内科主任部長
小児科主任部長
安井 昌博
やすい まさひろ



小児血液・腫瘍内科部長
小児科部長
稲垣 二郎
いながき じろう



小児血液・腫瘍内科部長
小児科主任部長
本田 裕子
ほんだ ゆうこ



小児血液・腫瘍内科部長
小児科部長
松石 登志哉
まついし としや

泌尿器科

診療科の紹介

泌尿器科悪性腫瘍、良性疾患に対する診療を行っています。とくに悪性腫瘍に対する手術治療・全身癌化学療法では、新しい知見を取り入れ、最新の治療が行えるよう心がけております。また、罹患頻度の高い尿路結石に対しては、迅速に手術治療を行い、できるだけ早く患者さんの苦痛を和らげるよう努めています。当院の特色である小児診療も積極的に行っており、小児泌尿器科領域での外科手術を施行しています。泌尿器科救急疾患にも24時間迅速に対応します。

平成31年4月より、常勤の泌尿器科医が1名増員となり、2名体制となりました。より柔軟な対応が可能となり、手術件数も順調に増加しています。種々の疾患に対し、当院で診断・治療・フォローアップまで完結できるように努め、地域住民の方々のニーズに応えられるような医療を展開してまいります。

診療科の特徴(強みや新たな取組み等)

■WAVE治療

前立腺肥大症に対する新しい治療として、令和7年11月より、WAVE治療(経尿道的水蒸気治療)を導入しました。出血がほとんどなく、手術時間が10分程度であり、従来の手術と比較しかなり低侵襲です。国内外の報告では治療成績も満足いくものとなっています。これから積極的に施行していきたいと考えております。

■内視鏡的デフラックス注入療法

膀胱尿管逆流症に対する新しい手術として、内視鏡的デフラックス注入療法を令和3年6月より開始しました。少しずつ症例が増え、20例ほど施行致しましたが、全例良好な治療経過です。症例数は福岡県でもトップクラスです。従来の開腹手術と比較し低侵襲な手術であり、患者さんの満足度も高いと考えます。

■尿路結石治療

尿路結石に対して、ESWL(体外衝撃波結石破砕術)とTUL(経尿道的結石砕石術)を積極的に行っています。できるだけお待たせすることなく、迅速に行うよう心がけています。

■前立腺癌骨転移に対する放射線医薬品治療

前立腺癌骨転移に対する放射線医薬品治療(223-Ra(商品名:ゾーフィゴ))を行っています。福岡県内でも上位の症例数を経験しております。

取り扱う主な疾患

■泌尿器科悪性疾患

腎癌、膀胱癌、腎盂尿管癌、前立腺癌、精巣腫瘍、副腎癌、等

■泌尿器科良性疾患

尿路結石症、前立腺肥大症、過活動膀胱、尿路感染症、等

■小児泌尿器疾患

停留精巣、先天性水腎症、膀胱尿管逆流症、包茎、等

■泌尿器救急疾患

尿路外傷、尿管結石嵌頓、腎後性腎不全、尿閉・膀胱タンポナーデ、精巣捻転、嵌頓包茎、等

令和7年度 診療実績

外来患者数	5615人
入院患者数	259人
(平均入院患者数10.1人/日、平均在院日数 13.2日)	
手術件数	212件
ESWL件数	50例

スタッフ紹介



泌尿器科主任部長
松本 博臣
まつもと ひろあき



泌尿器科
浦田 啓道
うらた ひろみち

皮膚科

診療科の紹介

月～金曜日の8時30分から11時までが受付時間です。2診体制と予約制で待ち時間の短縮に努めています。紹介の患者さんの初診は皮膚科専門医が担当します。紹介状をご持参いただければ予約なしでも診療可能ですが、来院前に事務手続きや前治療の把握等が行えますので、お電話やFaxでの事前予約にご協力をお願いいたします。

診療科の特徴(強みや新たな取り組み等)

問診や視診を十分に行い、必要に応じて皮膚生検などの検査を提案し、なるべく正確な診断が得られるように努めています。また、他科の医師とも緊密に連携し、質の高い医療を行っていくことを心がけています。

当院は乾癬やアトピー性皮膚炎などの生物学的製剤使用承認施設です。一人一人の重症度、生活への影響を考慮して適切な治療法を提案するようにしています。在宅自己注射が可能な製剤もあり、注射指導に力を入れています。調剤薬局とも連携をとり患者さんが安心して治療ができるようサポートしています。

自費診療では、帯状疱疹ワクチンと難治性の円形脱毛症(慢性期)や尋常性疣贅に適応のあるSADBEによる局所免疫治療を行っています。

取り扱う主な疾患

皮膚疾患全般を取り扱っています。皮膚腫瘍の診断・局所麻酔手術、感染症に対する治療、免疫抑制剤による治療の他に、生物学的製剤(重症のアトピー性皮膚炎、慢性特発性蕁麻疹、乾癬、掌跖膿疱症、化膿性汗腺炎)やJAK阻害薬(重症のアトピー性皮膚炎、円形脱毛症、乾癬)を用いた治療も積極的に行っております。

令和7年度 診療実績

皮膚生検件数 190件/年
皮膚、皮下腫瘍摘出術件数 49件/年
皮膚悪性腫瘍切除術 3件/年
在宅自己注射新規導入症例数 48件/年
光線(紫外線)療法 250件/年

生物学的製剤治療症例数

アトピー性皮膚炎(デュピクセント, ミチーガ他) 150人/年
蕁麻疹(ゾレア, デュピクセント) 16人/年
乾癬(掌跖膿疱症, 化膿性汗腺炎含む) 53人/年

JAK阻害薬治療症例数

オルミエント(アトピー性皮膚炎, 円形脱毛症) 5人/年
リンヴォック(アトピー性皮膚炎, 関節症性乾癬) 2人/年
サイバインコ(アトピー性皮膚炎) 2人/年
リットフーロ(円形脱毛症) 4人/年
ソーティクツ(尋常性乾癬) 7人/年

スタッフ紹介



皮膚科部長
古河 裕紀子
ふるかわ ゆきこ



皮膚科
古賀 千晶
こが ちあき



皮膚科
村尾 玲
むらお れい

眼科

診療科の紹介

コロナ、インフルエンザの感染はまだ、散見されます。感染対策をやりながら、診療を続けています。眼科医一名、視能訓練士一名体制であり、患者さんにはご迷惑をおかけすることもあります。一人ひとりの患者さんと大事に接することを心がけています。

患者さんのことをよく把握している三人の看護師が交替で、また医療クラークもついてくれるので、よい診療体制ができていると思っています。

診療科の特徴(強みや新たな取組み等)

手術は入院にて原則、火曜日の終日と水曜日の午後行っています。

- 白内障手術は1泊2日から3泊4日の入院
- 硝子体手術は4泊5日から7泊8日の入院

状況に応じて柔軟に対応しています。スタッフは少人数ですが、丁寧な診療を心がけています。全身疾患をお持ちの方も内科や外科に相談しながら、安心して手術を施行しています。

認知症の方は全身麻酔での手術が可能です。

取り扱う主な疾患

- 白内障、緑内障、糖尿病網膜症、その他の眼底疾患
- 他科との関連では、外傷なかでも眼窩底骨折による眼球運動障害や眼底疾患
- ステロイド治療中のお子さんなど

令和7年度 診療実績

水晶体再建術	97件
硝子体手術	2件
その他	10件

スタッフ紹介



眼科主任部長
板家 佳子
いたや よしこ

精神科

診療科の紹介

精神科では広く精神科一般の病気を診ています。妄想や幻覚で苦しんでいる人や気持ちが落ち込んでつらい人、職場の悩みを抱えて体調不良に悩む人、夜眠れなくて困っている人等、症状やその程度は様々です。

病名としては統合失調症、うつ病、不安症、不眠症、適応反応症、発達症、認知症などが主ですが、一口に精神科の病気といってもひとりひとり症状も治療法も違ってきます。したがってその人に一番良い治療法を目指しています。

また、外来患者さんだけでなく、当病院に入院中の他科患者さんの心のケアにもあたっています。なお当院には精神科の病床はありませんので、入院が必要な場合は他の精神科病院を紹介しています。

以上午前中の精神科外来、予約制の物忘れ外来、午後からの他科入院患者さんの精神面のケア（コンサルテーション・リエゾン精神医学）を主な業務としています。

外来は再来においては完全予約制ではありません。このため受信者数は日によってばらつきがあります。そのため場合によっては思いがけずお待たせすることもあります。新患は原則として完全予約制です。

取り扱う主な疾患

統合失調症、双極症、うつ病、不安症、不眠症、発達障害、適応反応症、発達症、認知症など。ここ一年といたしましては発達症、トラウマ関連疾患、児童思春期（特に15歳から20歳まで）の診療が増加傾向にあります。

令和7年度 診療実績

外来患者数

	令和7年度
初診	112人
再診	3,582人
紹介患者	58人
逆紹介患者	64人

診療科の特徴

令和2年6月もの忘れ外来を始めました。当科での心理検査と放射線科の画像検査をもとに、早期に認知症の診断・治療ができるよう努めています。下記に認知症診断のため当院でできる画像検査を紹介しています。

■VSRAD検査

MRI検査です。早期アルツハイマー病（アルツハイマー型認知症）では、脳萎縮が海馬で著明であるため、脳全体と海馬の萎縮の程度を一定値（ボクセル値）へ変換した後、健常人のデータベースを対照として解析することで、海馬領域が特に障害されていないかを判定します。身体的侵襲なしに比較的手軽にできるようになりました。早期アルツハイマー型認知症だけでなく、レビー小体型認知症などのその他の診断に役立ちます。

■脳血流シンチ検査

半減期の短い放射線同位元素で標識した薬剤を静脈注射して行う検査です。脳の血流分布の異常を調べてMRIの結果と重ね合わせることで認知症の鑑別をより進めることが出来ます。

■ダットスキャン検査

検査薬を静脈注射後撮像し脳内のドパミン神経の異常を評価します。レビー小体型認知症やパーキンソン病の診断に威力を発揮します。

当科では診療にこれらの画像所見を加えることでより厚みのある診療につなげるよう努めております。たとえば臨床診断と画像診断が一致しない場合もございますが、そのことが貴重なデータであると言え、今後のことに対応していくかを患者本人やご家族と相談しながら話合っておりまいます。

スタッフ紹介



精神科主任部長
石井 浩喜
いしい ひろき

婦人科

診療科の紹介

婦人科は医師1名で診療にあたっています。外来での待ち時間短縮のため、完全予約制で行っています。

当科では、女性の生涯を通し健康で日常生活を快適に過ごせることを目標に総合的な医療を目指しております。

思春期から性成熟期そして更年期・老年期などそれぞれのライフステージで身体的・ホルモンの変化に対応できるよう予防的なケアやメンタルケアを提案できるよう心がけています。

初診の際は、婦人科クリニックに限らずかかりつけの病院・医院で相談され、担当医の先生に紹介状の作成と受診予約(当院地域医療連携室経由)を取って来院されてください。かかりつけ医がない場合でも受診可能ですが、初診時選定療養費(7,700円)が別途かかりますので、ご了承ください。再診予約優先のため、初診の場合は診察が遅い時間帯になりますのでご理解くださいますようお願いいたします。

診療科の特徴(強みや新たな取り組み等)

■婦人科内分泌および女性のヘルスケア

初経を認めない原発性無月経や、月経がまれにしか起こらない稀発月経、月経が止まってしまう続発性無月経など、月経周期の異常は早期の原因究明や治療が必要です。また、若い年代からの月経痛などは、適切な対処と治療を行うことにより将来のヘルスケアに関連するといわれています。

また、月経量が多いことによる鉄欠乏性貧血を対処することで、日常生活のトラブルやメンタルヘルスをよりよくすると考えられています。

更年期に起こる症状はホルモン補充療法や漢方療法など適切に対処することにより、その後に控える高齢期の精神や身体機能をより良い状態で迎えられると報告されています。

日々、幅広い年齢層の方々の個々の状態を理解し、治療をして良かったと思って頂けるような診療を心がけています。

■子宮頸がん2次検診

人間ドックなどで行なった子宮頸がん検診で精密検査が必要となった症例に対して、精密検査を行っています。

子宮頸部異形成の精密検査方法はコルポスコピー(拡大鏡)検査によって、異常の有無や程度を調べ、異常な部位を狙って組織を採取する病理組織検査を行います。その結果により、その後の治療方針が決まります。

当院では子宮頸部中等度異形成でハイリスクのHPVに感染している場合は、CO2レーザー蒸散術(入院・2泊3日)を行っています。

■バルトリン腺嚢胞・膿瘍

基本的には外来手術で対応しています。嚢胞の大きさによりますが、嚢胞部位の一部を切開し縫合する造袋術を行っており、受診当日に対応する様にしております。

取り扱う主な疾患

- 無月経(原発性・続発性)
- 月経周期異常
- 多嚢胞性卵巣症候群
- 更年期障害
- 月経困難症(月経痛)の治療
- 性感染症の診断と治療
- 子宮頸部異形成
- 子宮筋腫
- 子宮頸管ポリープ
- 子宮内膜ポリープ
- 卵巣嚢腫
- 子宮腺筋症
- 子宮内膜症
- バルトリン腺嚢胞・膿瘍
- 骨盤臓器脱(ペッサリーリングによる治療 手術は不可)
- 生殖器の先天性異常
- 不妊症(子宮卵管造影検査)
- 性虐待、性被害(モーニングピルの処方可)

令和7年度 診療実績

- 外来手術
 - 子宮頸管ポリープ摘出術(11件)
 - 薬物放出子宮内システム(ミレーナ®)処置(2件)
 - バルトリン腺嚢胞造袋術(2件)
- 入院手術
 - 子宮頸部レーザー蒸散術(5件)
 - 尖圭コンジローム切除術(レーザー蒸散術も含む)(4件)
 - 子宮内膜全面搔把術(4件)
- 外来検査
 - 子宮卵管造影検査(1件)

スタッフ紹介



婦人科主任部長
今福 雅子
いまふく まさこ

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

診療科の紹介

主任部長の大久保淳一に加え、令和7年より耳鼻咽喉科専門医・指導医の高橋梓部長を向かえ、2人体制で診療を行っております。二人とも産業医大卒で鈴木秀明前教授に薫陶を受けました。

外来診療は2診体制で平日は毎日診療しております。受付時間は11時までですが、緊急を有する場合は午後からでも基本的にお断りすることはございません。感染、疼痛、気道狭窄、外傷、出血、腫瘍、頸部リンパ節腫脹、難聴、などさまざまな疾患に対応可能な体制を整えてお待ちしております。

岡本好司院長のモットーは、“患者さんを絶対に断らない。そして最高の医療を提供する”です。私たちもそういう診療科でありたいと願っています。近隣の開業医の先生方から信頼していただき、患者さまを紹介していただけることが何よりも私たちの喜びとやりがいを感じられるようになりました。受診される患者さんの不安に寄り添い、一日も早く最善の治療が始められるように心がけてこれからも診療に携わって参りますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

お子さんからご年配の方々まで男女問わず、ご縁のあった患者さまがみな、困りごとを解決され、人生がよりよいものとなりますように。

診療科の特徴(強みや新たな取組み等)

外来診療の受付は平日11時までですが、前述の通り、緊急を有する場合は時間外でも対応させていただきます。得意とする手術は甲状腺腫瘍や耳下腺腫瘍や喉頭がんなどの頭頸部腫瘍を扱う頭頸部外科手術ですが、口蓋扁桃摘出術、喉頭マイク口術、内視鏡下鼻副鼻腔手術、鼓膜形成術など基本的な耳鼻咽喉科手術ももちろん受けることが可能です。当科の特徴を取上げてあげれば、耳鼻咽喉科指導医も取得しているベテラン医師により執刀されるため、安心して手術を受けていただける点でしょうか。また当院は小児科に特化した市中病院として役割を果たしてきた長い歴史があり、小児の睡眠時無呼吸症候群、急性中耳炎などの炎症性疾患、外傷の治療にも力を入れています。

病棟は突発性難聴、顔面神経麻痺、めまい、急性扁桃炎、急性喉頭蓋炎、頸部リンパ節炎などの保存的加療の患者さまと手術目的の患者さまを合わせると概ね5名～10名の入院患者さんがいらっしゃるという印象です。病院はまだ新しく個室も充実しておりますのでリラクセスして療養していただけることと存じます。特に最上階からの血倉山の眺めは圧巻で、人生の些細な悩みやとるに足らない見栄など生きる上で不要なものをすべてを浄化してくれる気がします。ちなみに耳鼻咽喉科の病棟は最上階にあります。

取り扱う主な疾患

細菌感染などによる炎症疾患、外傷、出血、腫瘍、頸部リンパ節腫脹などさまざまな疾患を診察可能です。具体的に一部を下記にまとめます。

- 耳の疾患 中耳炎、外耳炎、めまい、突発性難聴、顔面神経麻痺、耳鳴り
- 鼻の疾患 副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、鼻出血、嗅覚障害、鼻副鼻腔腫瘍
- 咽頭の疾患 扁桃炎、咽頭炎、咽頭異物、咽頭腫瘍
- 喉頭の疾患 喉頭炎、声帯麻痺、声帯ポリープ、喉頭腫瘍
- 頸部の疾患 甲状腺腫瘍、耳下腺腫瘍、顎下腺腫瘍、頸部リンパ節炎、頸部リンパ節転移
- 頭頸部腫瘍 舌がん、咽頭がん、喉頭がん、唾液腺がん、甲状腺がんなど

このように多岐にわたる疾患の治療が可能です。

また若い女性の方は甲状腺腫瘍の外科治療で首の傷が気になると思われる方も多いのではないのでしょうか？当科では内視鏡下甲状腺手術(VANS法)が可能であり、首に傷の残らない治療を行うことができます。まずはお気軽にご相談ください。

診療実績(手術・検査数等)

口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術、ESS、喉頭マイク口術、顎下腺・耳下腺腫瘍切除術など平易な手術がほとんどですが、頭頸部がんの再建手術も令和7年度の1年間で2例行いました。私のライフワークであります機能温存手術のひとつ、喉頭温存下咽頭部分切除術も1例行いました。頭頸部がんの術後照射が必要な患者さまは戸畑共立病院放射線治療科と連携させていただいております。治療開始まで迅速、かつ支持療法も充実しており標準的な化学放射線療法も安全に完遂可能です。

令和7年度 診療実績

令和7年4月～令和8年3月	
両口蓋扁桃摘出術	74例
アデノイド切除術	31例
内視鏡下鼻副鼻腔手術	48例
鼻中隔矯正術	9例
両下鼻甲介骨切除術	13例
両後鼻神経切断術	11例
喉頭マイク口術	14例
耳下腺腫瘍切除術	7例(深葉1例含)
顎下腺摘出術	9例(悪性1例含)
甲状腺片葉切除術	2例
上顎全摘術	1例
舌亜全摘術	1例
喉頭温存下咽頭部分切除術	1例
頸部郭清術	8例
その他(頸部膿瘍、頸嚢、気切、鼓膜閉鎖、リンパ節生検、唾石など)	52例
計	281例

スタッフ紹介



耳鼻咽喉科・頭頸部外科主任部長
小児睡眠時無呼吸センター長

大久保 淳一
おおくぼ じゅんいち



耳鼻咽喉科・頭頸部外科部長

高橋 梓
たかはし あずさ

放射線科

診療科の紹介

当科は現在放射線診断専門医2名で画像診断とIVR(インターベンショナルラジオロジー)を中心に診療を行っています。

診療科の特徴(強みや新たな取組み等)

画像診断は、CT検査、MRI検査、RI検査、マンモグラフィなどを行っています。CT検査では、高速ヘリカルスキャンにより鮮明で詳細な画像が得られます。またワークステーションにより冠動脈や腎動脈の狭窄、脳動脈瘤や大動脈瘤、骨折等の3D画像を容易に得ることができます。RI検査では、SPECT画像を、MRI検査では、MR Angio画像を得ることができます。CT、MRI、RIに関しては予約制で、他院からの依頼も受けています。

IVRは血管系では一般的なTAEやPTAから比較的稀なB-RTO、リザーバー留置術まで、非血管系では、PTGBD、PTCDや膿瘍ドレナージ、生検、胆道ステント挿入等を施行しています。

取り扱う主な疾患

- 画像診断の対象となる疾患一般・・・腫瘍性疾患、炎症性疾患、先天性疾患、外傷など
- 肝細胞癌を始めとした悪性腫瘍に対する化学動注塞栓療法
- 乳癌など悪性腫瘍に対する画像ガイド下針生検

令和7年度 診療実績

CT	10,022件
MRI	2,936件
IVR(血管内手術含む)	22件
核医学検査	230件

スタッフ紹介



放射線科主任部長
今福 義博
いまふく よしひろ



放射線科
神崎 修一
こうざき しゅういち

麻酔科

診療科の紹介

麻酔科は、日本専門医機構認定の麻酔科専門医3名を含む4名の常勤医と、非常勤の麻酔専門医で診療を行っています。手術麻酔を中心とした周術期管理に加え、外来では主にペインクリニックとして痛みの診療を行っています。

なお、令和8年度からは手術件数の増加に伴い、外来診療は月曜午前の週1回となっています。

診療科の特徴(強みや新たな取組み等)

当院では、乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層の患者さんに対応し、救急医療にも積極的に取り組んでいます。麻酔科は急性期医療の一翼を担い、24時間365日体制で緊急手術にも対応しています。手術を受ける患者さんが、できるだけ安全に、そして安心して手術を受けられるよう、外科系診療科、手術室看護師、臨床工学技士、放射線技師、薬剤師など多職種と連携し、「より安全に、より快適に」をモットーに周術期管理を行っています。また、術後疼痛管理チームにより、術後の痛みを和らげ早期回復につなげる取り組みも進めています。外来では、痛みやしびれに対する診療を行っています。

取り扱う主な疾患

■手術麻酔

全身麻酔、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔などによる各種手術の麻酔管理を行っています。超音波ガイド下末梢神経ブロックも積極的に併用しています。

■外来診療

帯状疱疹関連痛、三叉神経痛、術後に続く痛み、複合性局所疼痛症候群、腰下肢痛、がん性疼痛など、痛みやしびれに関する診療を行っています。

また、末梢性顔面神経麻痺、突発性難聴、四肢の血行障害などに対しても、関連診療科と連携しながら対応しています。

令和7年度 診療実績

項目	件数
手術室全手術件数	2,462件
麻酔科管理手術件数	1,699件
麻酔科管理麻酔件数	1,685件
うち全身麻酔件数	1,663件

※麻酔科管理麻酔件数には、複数科による同時手術を含みます。

昨年度は、全身麻酔下での歯科診療症例も加わり、手術室全体の手術件数、麻酔科管理症例数ともに、昨年度と比較して約200件増加しました。

今後も安全で質の高い麻酔管理を提供できるよう、手術室スタッフと連携しながら体制の充実に努めてまいります。

スタッフ紹介



麻酔科主任部長
集中治療室長
金色 正広
かないろ まさひろ



麻酔科主任部長
手術室長
齋藤 将隆
さいとう まさたか



麻酔科部長
齋藤 美保
さいとう みほ



麻酔科部長
松原 光希
まつばら こうき

救急科

診療科の紹介

救急科医師を中心に外科系、内科系の救命救急センター当番医師の協力を仰ぎながら、救急診療にあたっています。日中の救急診療は、救急科専門医3名、後期専攻医3名、救急科研修医1名の7名で行っています。普段の救急診療のみならず、救急救命士の指導、地域メディカルコントロール体制への関与に従事しています。

取り扱う主な疾患

- 重症外傷、多発外傷
- 院外心肺停止
- 消化管出血
- 脳血管障害
- 急性冠症候群

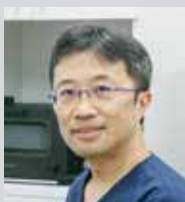
診療科の特徴(強みや新たな取組み等)

外科を中心に、整形外科、脳神経外科、形成外科とも連携しながら、北九州市西部地域のさまざまな外傷疾患に対応しています。

免震構造の屋上ヘリポートを有し、北九州地域で発生した広域搬送事案において、消防防災ヘリやドクターヘリの受入を積極的に行っています。

北九州地域の災害基幹病院として、DMAT(災害医療派遣チーム)を有して、日頃から活動しています。

スタッフ紹介



救急科主任部長
呼吸器外科主任部長
救命救急センター長
井上 征雄
いのうえ まさお



救急科部長
平松 俊紀
ひらまつ としき



救急科部長
小児科部長
小児救急センター長
福政 宏司
ふくまさ ひろし



救急科部長
室屋 大輔
むろや だいすけ



救急科部長
北村 拓也
きたむら たくや



救急科副部長
岡本 健司
おかもと けんじ

歯 科

診療科の紹介

歯科は、歯科医師1名、歯科衛生士2名で診療を行っています。少人数で診療を行っておりますので、受診時は必ずご予約いただくこと、無断キャンセルをしないこと、予約時間に遅れる時は電話をいただくこと、をお願いしています。歯科の担当医は公益社団法人日本小児歯科学会認定小児歯科専門医です。成人につきましても、周術期等の口腔ケア、骨修飾薬使用前の顎骨壊死リスク評価等を行っています。

診療科の特徴(強みや新たな取組み等)

小児歯科診療(定期検診、虫歯の治療、歯の外傷に対する処置など)に力を入れています。また、安定期の妊婦さんを対象に出産に向けた口腔ケアを行い、生まれてくるお子さんが虫歯にならないために留意すべき点などをお伝えします。乳幼児期は摂食機能や構音機能を獲得する大事な時期ですので、離乳相談等歯科の立場から口腔機能獲得のための支援を行います。発達障害や歯科治療に強い恐怖心をお持ちのお子様に対しては、個々の状況に応じて最適な治療方針をご相談させていただきます。小児を対象に全身麻酔下歯科治療を行います。

また、小児、成人を問わず、周術期等の口腔管理を行います。

取り扱う主な疾患

【小児に対して】

- ・小児の口腔領域の発育をサポートするための健診
- ・歯科検診
- ・虫歯の治療
- ・全身麻酔下歯科治療

【成人に対して】

- ・安定期の妊婦歯科検診
- ・歯周病(軽度～中等度)の治療
- ・骨修飾薬を使用する前の顎骨壊死リスク評価
- ・睡眠時無呼吸症候群や歯ぎしりに対するマウスピース作成

【小児、成人に対して】

- ・外傷(歯がグラグラする、歯が折れた、等)に対する治療
- ・周術期等口腔管理(口腔ケア)

令和7年度 診療実績

- ・外来患者数約3091人
- ・小児の全身麻酔下歯科治療例28例
- ・小児科医師からの御依頼による、小児救急患者(外傷)に対する夜間歯科診療14例(うち10例は電話や画像等による相談)

スタッフ紹介



歯科主任部長
渡辺 幸嗣
わたなべ こうじ

臨床検査科

診療科の紹介

臨床検査科は令和元年より正式な標榜科としてスタートいたしました。現在常勤医師1名、非常勤病理医師5名で運営し、診療内容は臨床検査に関わる各種診断、検査、管理、コンサルテーション業務を主体に活動を行っています。病理診断に関する業務は産業医科大学第2病理学講座の協力、生理機能検査は関連各診療科医師に協力いただいています。

また各種の検査結果に基づき院内の感染制御、医療安全業務、労働安全衛生業務に協力しています。

診療科の特徴(強みや新たな取組み等)

平成30年の臨床検査に関わる医療法等の改正により、各種検査に精度管理者を配置し、正確な検査結果を保証するとともに検査機器の日々の的確な管理が求められるようになりました。現在の医療では、数年前と比べても疾患の細分化は進んでおり、治療はその細分化された診断に基づき行われます。検査機器もそれに併せて日々進歩し、正しい検査結果無くして正確な診断や治療は困難な時代を迎えつつあります。

救急医療の現場では迅速で正確な検査結果が必要とされる一方で、小児疾患、がん診療等においては慎重な取り扱いを必要とする遺伝子検査が必要となることがございます。常に病状や状況に合わせて、最適な医療を提供できるように各診療科と連携し、積極的に診療をサポートしています。

＜令和7年度の取り組み＞

- 輸血製剤適正な管理体制の推進
- 廃血率低下
- 初期研修医教育
- 残余検体の管理体制の改善
- 各種遺伝子検査への協力

令和7年度は、新型コロナウイルスをはじめとするさまざまな病原体遺伝子検査に加え、体細胞遺伝子検査による癌治療サポートを行いました。また輸血業務では、血液製剤の適正使用に取り組んでおり、これまでの取り組みが院内に浸透し、令和7年度も低い廃血率を維持できました。

教育面では、初期研修医指導の一環として、「臨床検査入門」「輸血実践トレーニング」等の講習を実施しています。さらに希望者には臨床検査科にて1ヶ月間の研修も実施しており、令和7年度は、希望者1名に対して教育を行っています。

今後も迅速な検査や信頼されるコンサルテーション業務、また研修医教育を通して、質の高い医療に貢献して参ります。

取り扱う主な対象

- 一般、生化学、免疫・輸血、血液に関わる各種検体の検査、診断及び管理等
- 細菌、真菌及びウイルスに関わる同定、遺伝子解析検査等
- 病理診断及び検査(生検、手術材料に関する病理診断及び病理解剖等)
- 生理機能検査(心電図、超音波検査、肺機能検査、脳波検査等)
- 上記検査に関する診断、コンサルテーション
- 輸血関連製剤の適正使用に関するアドバイス

令和7年度 診療実績

検査項目	検査実績(検査項目数)
一般検査	178,683
生化学検査(含、免疫・輸血)	602,494
血液検査	225,750
生理検査	18,547
細菌検査	28,237
時間外緊急検査	280,499
病理検査(生検・術材)	1,577(件数)
病理検査(術中迅速組織検査)	6(件数)
病理検査(細胞診)	1,355(件数)
病理解剖	2

スタッフ紹介



臨床検査科主任部長

木村 聡
きむら さとし

専門医・資格認定等一覧

専門医・資格認定等一覧

外科



病院長
感染制御室長
消化器・肝臓病名誉センター長
岡本 好司

おかもと こうじ

- ・日本外科学会専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医
- ・日本肝胆膵外科学会高度技能名誉指導医
- ・日本肝臓学会専門医・指導医
- ・日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
- ・日本消化器病学会専門医・指導医
- ・日本乳癌学会認定医
- ・日本腹部救急医学会腹部救急認定医・腹部救急教育医・名誉会員
- ・ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター認定医
- ・日本Acute Care Surgery学会認定外科医
- ・日本血栓止血学会血栓止血認定医
- ・日本外科感染症学会外科周術期感染管理認定医
- 外科周術期感染管理教育医



統括部長
医療情報管理室長
ベッドコントロール室長
木戸川 秀生

きどがわ ひでお

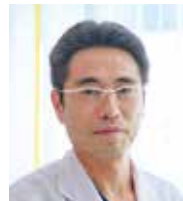
- ・日本外科学会専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医
- ・日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
- ・日本救急医学会救急科専門医
- ・日本消化器病学会専門医
- ・日本内視鏡外科学会技術認定医（消化器・一般外科）
- ・日本腹部救急医学会腹部救急認定医・腹部救急教育医
- ・ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター認定医
- ・統括DMAT登録者



統括部長
消化器・肝臓病センター長
野口 純也

のぐち じゅんや

- ・日本外科学会専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医
- ・日本消化器内視鏡学会専門医
- ・日本消化器病学会専門医・指導医
- ・日本肝臓学会専門医
- ・日本腹部救急医学会腹部救急認定医



小児外科主任部長
新山 新

しんやま しん

- ・日本小児外科学会専門医
- ・日本外科学会専門医



外科主任部長
山吉 隆友

やまよし たかとも

- ・日本外科学会専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医
- ・日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
- ・日本消化器病学会専門医・指導医
- ・日本外傷学会外傷専門医
- ・日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- ・日本外科感染症学会外科周術期感染管理認定医
- ・日本腹部救急医学会腹部救急認定医・腹部救急教育医
- ・ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター認定医



消化器外科主任部長
上原 智仁

うえはら としひと

- ・日本外科学会専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医
- ・日本消化器病学会専門医・指導医
- ・日本消化器内視鏡学会専門医
- ・日本腹部救急医学会腹部救急認定医
- ・日本外科感染症学会外科周術期感染管理認定医
- ・ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター認定医



外科部長
又吉 信貴

またよし のぶたか

- ・日本外科学会専門医
- ・日本消化器外科学会専門医・消化器がん外科治療認定医



外科部長
沖本 隆司

おきもと たかし

- ・日本外科学会専門医
- ・日本消化器病学会消化器病専門医
- ・日本消化器外科学会専門医・消化器がん外科治療認定医
- ・日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- ・日本消化器内視鏡学会専門医



外科副部長
久原 一哲

くはら かずのり



外科
井上 海

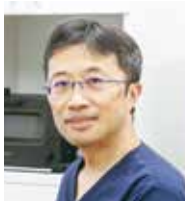
いのうえ かい



外科
松原 詩歩

まつばら しほ

外科・救急科



呼吸器外科主任部長
救急科主任部長
救命救急センター長

井上 征雄

いのうえ

まさお

- ・日本外科学会専門医
- ・日本呼吸器外科学会認定登録医
- ・日本救急医学会専門医
- ・社会医学系専門医協会専門医・指導医
- ・肺がんCT検診認定機構認定医
- ・日本乳がん検診精度管理中央機構検診マングラフィ読影認定医
- ・統括DMAT登録者

救急科



救急科部長

平松 俊紀

ひらまつ

としき

- ・日本救急医学会救急科専門医
- ・社会医学系専門医協会専門医・指導医
- ・日本集中治療医学会専門医
- ・日本化学療法学会抗菌化学療法認定医
- ・日本中毒学会認定クリニカル・トキシコロジスト
- ・日本外傷学会外傷専門医
- ・日本急性血液浄化学会認定指導医
- ・死体解剖資格認定
- ・臨床研修指導医

救急科・小児科(兼務)



救急科部長
小児科部長
小児救急センター長

福政 宏司

ふくまさ

ひろし

- ・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医
- ・日本集中治療医学会認定集中治療専門医

救急科



救急科部長

室屋 大輔

むろや

だいすけ

- ・日本外科学会専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医
- ・日本消化器病学会専門医
- ・日本肝臓学会肝臓専門医・指導医
- ・日本胆道学会認定指導医
- ・日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- ・日本高気圧環境・潜水医学会高気圧医学専門医
- ・日本大腸肛門病学会専門医
- ・厚生労働省麻酔科標榜医

救急科



救急科部長

北村 拓也

きたむら

たくや

- ・日本救急医学会救急科専門医
- ・日本蘇生学会指導医
- ・日本旅行医学会認定医
- ・日本体力医学会健康科学アドバイザー
- ・日本医師会認定健康スポーツ医
- ・日本スポーツ協会公認スポーツドクター
- ・日本パラスポーツ協会障害者スポーツ医
- ・臨床研修指導医



救急科副部長

岡本 健司

おかもと

けんじ

内科



統括部長
内科主任部長

末永 章人

すえなが

あきひと

- ・日本内科学会認定内科医・指導医・総合内科専門医
- ・日本神経学会神経内科専門医・指導医



内科

宮崎 三枝子

みやざき

みえこ

- ・日本内科学会認定内科医・指導医
- ・日本腎臓学会専門医
- ・日本透析医学会専門医
- ・多発性嚢胞腎協会PKD認定医
- ・日本骨粗鬆症学会
- ・日本尿酸学会

呼吸器内科



呼吸器内科主任部長

森 雄亮

もり

ゆうすけ

- ・日本内科学会認定内科医・指導医・総合内科専門医
- ・日本呼吸器学会呼吸器専門医
- ・日本呼吸器内視鏡学会専門医
- ・日本結核・非結核性抗酸菌症学会
- ・結核・抗酸菌症専門医専門医・指導医
- ・日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- ・肺がんCT検診認定機構認定医
- ・ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター認定医



呼吸器内科副部長

長澤 大賀

ながさわ

たいが

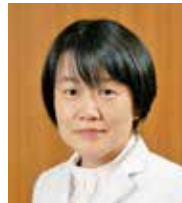
専門医・資格認定等一覧

呼吸器内科



呼吸器内科
浅井 夏輝
あさい なつき

循環器内科



統括部長
地域医療連携室長
津田 有輝
つだ ゆき

- ・日本内科学会認定内科医・指導医・総合内科専門医
- ・日本循環器学会循環器専門医
- ・日本心血管インターベンション治療学会認定医
- ・日本医師会認定産業医
- ・日本内科学会救急委員会JMECCインストラクター
- ・日本救急医学会ICLS・BLSインストラクター
- ・臨床研修指導医

循環器内科



循環器内科主任部長
大江 学治
おおえ ひさはる

- ・日本内科学会認定内科医・指導医・総合内科専門医
- ・日本循環器学会循環器専門医
- ・日本不整脈心電学会不整脈専門医
- ・植込み型除細動器 (ICD) / ペーシングによる心不全治療 (CRT) 研修修了
- ・着型自動除細動器 (WCD) 処方資格



循環器内科部長
屏 壮史
へい そうし

- ・日本内科学会認定内科医・指導医・総合内科専門医
- ・日本循環器学会循環器専門医
- ・日本心エコー学会SHD心エコー図認証医

整形外科・リハビリテーション科



副院長
診療支援部長
岡部 聡
おかべ さとし

- ・日本整形外科学会専門医・指導医・認定スポーツ医
- ・日本リウマチ学会



整形外科主任部長
リハビリテーション科主任部長
目貫 邦隆
めぐみ くにたか

- ・日本整形外科学会専門医・指導医・認定リウマチ医・認定スポーツ医
- ・日本手外科学会専門医・指導医
- ・日本骨粗鬆症学会認定医



整形外科部長
田島 貴文
たじま たかふみ

- ・日本整形外科学会専門医・指導医・認定リウマチ医
- ・日本手外科学会専門医・指導医
- ・リバーズ型人工肩関節資格修了
- ・DARTS人工手関節資格終了



整形外科部長
栗之丸 直朗
くりのまる なおき

- ・日本整形外科学会専門医・指導医・認定スポーツ医・運動器リハビリテーション医
- ・日本骨粗鬆症学会認定医
- ・日本人工関節学会認定医



整形外科部長
大久保 友貴
おおくぼ ゆうき

- ・日本整形外科学会専門医



整形外科副部長
藤崎 匠
ふじさき しゅう

脳神経外科



脳神経外科主任部長
高松 聖史郎
たかまつ せいしろう

- ・日本脳神経外科学会脳神経外科専門医・指導医
- ・日本脳卒中学会脳卒中専門医・指導医
- ・日本神経内視鏡学会技術認定医
- ・米国脳神経外科学会国際会員
- ・日本脳卒中の外科学会技術認定医
- ・日本脳神経血管内治療学会
- ・日本頭蓋底外科学会
- ・日本神経減圧術学会
- ・日本脳神経減圧術学会認定医
- ・臨床研修指導医



脳神経外科部長
宮地 裕士
みやち ひろし

- ・日本脳神経外科学会脳神経外科専門医
- ・日本脳卒中学会脳卒中専門医
- ・日本神経内視鏡学会技術認定医

形成外科



副院長
医療安全管理室長
外傷・形態修復・治療センター長

田崎 幸博

たさき ゆきひろ

- ・日本形成外科学会形成外科専門医・形成外科領域指導医・皮膚腫瘍外科分野指導医・小児形成外科分野指導医
- ・日本熱傷学会専門医
- ・日本創傷外科学会専門医
- ・日本口蓋裂学会認定師（形成外科分野）



形成外科主任部長

今村 禎伸

いまむら よしのぶ

- ・日本形成外科学会形成外科専門医

形成外科



形成外科副部長

古川 くるみ

ふるかわ

麻酔科



麻酔科主任部長

集中治療室室長
金色 正広

かないろ まさひろ

- ・日本麻酔科学会認定医・指導医
- ・日本専門医機構麻酔専門医
- ・日本医療機器学会認定MEDIC
- ・厚生労働省麻酔科標榜医
- ・日本医師会認定産業医

麻酔科



麻酔科主任部長

手術室室長
齋藤 将隆

さいとう まさたか

- ・日本麻酔科学会専門医・指導医
- ・日本集中治療医学会認定集中治療専門医
- ・厚生労働省麻酔科標榜医
- ・日本医師会認定産業医



麻酔科部長

齋藤 美保

さいとう みほ

- ・日本麻酔科学会認定医
- ・厚生労働省麻酔科標榜医
- ・日本医師会認定産業医

麻酔科



麻酔科部長

松原 光希

まつばら こうき

- ・厚生労働省麻酔科標榜医

耳鼻咽喉科・頭頸部外科



耳鼻咽喉科・頭頸部外科主任部長
小児睡眠時無呼吸センター長

大久保 淳一

おおくぼ じゅんいち

- ・日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医・指導医
- ・日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医
- ・日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- ・日本甲状腺外科学会
- ・日本頭頸部癌学会
- ・日本内分泌外科学会
- ・耳鼻咽喉科臨床学会

耳鼻咽喉科・頭頸部外科



耳鼻咽喉科・頭頸部外科部長

高橋 梓

たかはし あずさ

- ・日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医
- ・日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- ・補聴器相談員

眼科



眼科主任部長

板家 佳子

いたや よしこ

- ・日本眼科学会専門医

精神科



精神科主任部長

石井 浩喜

いしい ひろき

- ・日本精神神経学会専門医

放射線科



放射線科主任部長

今福 義博

いまふく よしひろ

- ・日本医学放射線学会放射線診断専門医・指導医
- ・日本乳がん検診精度管理中央機構
検診マンモグラフィ読影認定医
- ・厚生労働省認定臨床研修指導医

専門医・資格認定等一覧

放射線科



放射線科部長
神崎 修一

こうざき しゅういち

・日本医学放射線学会放射線診断専門医

泌尿器科



泌尿器科主任部長
松本 博臣

まつもと ひろおみ

・日本泌尿器科学会専門医・指導医

泌尿器科



泌尿器科副部長
浦田 啓道

うまた はるみち

皮膚科



皮膚科部長
古河 裕紀子

ふるかわ ゆきこ

・日本皮膚科学会専門医

皮膚科



皮膚科
古賀 千晶

こが ちあき



皮膚科
村尾 玲

むらお れい

・日本皮膚科学会専門医

婦人科



婦人科主任部長
今福 雅子

いまふく まさこ

・日本産科婦人科学会専門医
・日本がん治療認定医機構がん治療認定医
・日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医
・日本婦人科腫瘍学会
・日本産科婦人科遺伝診療学会
・日本医師会母体保護法指定医師
・女性アスリート健康支援委員会講習会受講医師

歯科

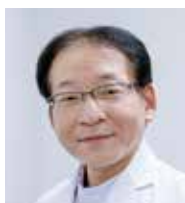


歯科主任部長
渡辺 幸嗣

わたなべ こうじ

・日本小児歯科学会認定小児歯科専門医・指導医
・日本障害者歯科学会認定障害者歯科認定医

臨床検査科



臨床検査科主任部長
木村 聡

きむら さとし

・日本内科学会総合内科専門医
・日本循環器学会専門医
・日本臨床検査医学会臨床検査専門医・臨床検査管理医
・日本医師会認定産業医

小児科



副院長
小児総合医療センター長
臨床研修センター長
天本 正乃

あまもと まさの

・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医



統括部長
高野 健一

たかの けんいち

・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医



小児科主任部長
石橋 紳作

いしばし しんさく

・日本小児科学会小児科専門医



小児科主任部長
小児血液・腫瘍内科主任部長
安井 昌博

やすい まさひろ

・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医
・日本血液学会血液専門医・指導医
・日本小児血液・がん学会専門医・指導医
・日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医
・日本輸血・細胞治療学会輸血認定医・細胞治療認定管理師



小児科主任部長
小林 匡

こばやし まさし

・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医
・日本救急医学会救急科専門医



小児科主任部長
小児血液・腫瘍内科部長
本田 裕子

ほんだ ゆうこ

・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医
・日本血液学会血液専門医・指導医
・日本小児血液・がん学会専門医・指導医
・日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医



小児科部長
小児血液腫瘍内科部長
稲垣 二郎

いながき じろう

・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医
・日本血液学会血液専門医・指導医
・日本小児血液・がん学会小児血液・がん専門医・指導医
・日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医



小児科部長
富田 一郎

とみた いちろう

・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医



小児科部長
八坂 龍広

やさか たつひろ

・日本小児科学会小児科専門医



小児科部長
小児臨床超音波センター長
小野 友輔

おの ゆうすけ

・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医
・日本超音波医学会専門医・指導医



小児科部長
長嶺 伸治

ながみね しんじ



小児科部長
中野 慎也

なかの しんや

・日本小児科学会小児科専門医・認定小児科指導医
・日本腎臓学会専門医
・多発性嚢胞腎協会PKD認定医



小児科部長
中野 珠菜

なかの たまな

・日本小児科学会小児科専門医
・日本アレルギー学会専門医



小児科部長
小児血液・腫瘍内科部長
松石 登志哉

まついし としや

・日本小児科学会小児科専門医
・日本血液学会血液専門医

専門医・資格認定等一覧

小児科



小児科部長
森吉 研輔
もりよし けんすけ



小児科部長
藤崎 徹
ふじさき とおる



小児科部長
江口 啓意
えぐち ひろい



小児科部長
吉田 峻
よしだ しゅん
・日本小児科学会小児科専門医
・子どものこころ専門医



小児科部長
朝長 星哉
ともなが せいや
・日本整形外科学会専門医・認定リウマチ医・
認定スポーツ医・運動器リハビリテーション医



小児科
今村 徳夫
いまむら のりお
・日本小児科学会小児科専門医



小児科
村上 知恵
むらかみ ちえ
・日本小児科学会小児科専門医
・日本小児神経学会専門医



小児科
小野 佳代
おの かよ
・日本小児科学会小児科専門医
・日本アレルギー学会専門医



小児科
沖 剛
おき たけし
・日本小児科学会小児科専門医
・日本アレルギー学会専門医



小児科フェロー
高橋 昂暉
たかはし こうき



小児科フェロー
長井 保憲
ながい やすのり



小児科専攻医
戸谷 凌太
とたに りょうた



小児科専攻医
兵頭 美咲
ひょうどう みさき



小児科専攻医
杉之原 理衣
すぎのはら りえ

小児科



小児科専攻医
古賀 匡貴
こが まさき



小児科専攻医
中辻 由莉
なかつじ ゆり

初期臨床研修医



初期臨床研修医
井手 睦
い で むつみ



初期臨床研修医
宇野 王士郎
う の おうじろう



初期臨床研修医
原田 崇暉
はらだ たかき



初期臨床研修医
平田 萌夏
ひらた もえか



初期臨床研修医
篠崎 由稀
しのざき ゆき



初期臨床研修医
吉田 知生
よしだ ともき



初期臨床研修医
木村 健人
きむら けんと



初期臨床研修医
大江 茉奈
おおえ まな

院内センター

救命救急センター

センターの紹介

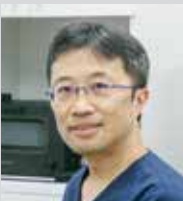
当院の救命救急センターは昭和53年10月に九州で2番目の救命救急センターとして開設されて以来、北九州地域の三次救急医療体制の中核施設としての役割を果たしてきました。

当センターは北九州市西部地域の2次、3次救急を担う救命救急センターであり1. 救命救急医療、2. 小児救急医療、3. 災害支援医療を政策医療に掲げています。免震の大型屋上ヘリポートはヘリ搬送患者の受け入れ拠点として運用されています。また、病院敷地内には常設型救急ワークステーションができ、北九州地域の救急業務メディカルコントロール体制における中核施設として活動を行っています。

センターの特徴・取組み等

初期研修医は、救急科研修を通じて、平日時間帯は救命救急センター担当医の指導助言のもと、センターに救急搬送された内科、外科系患者の診療に携わっています。救急科領域専門研修プログラム（八幡病院エキスパート研修プログラム）に基づき、現在3名の専攻医が救急領域研修を行っています。研修医、専攻医においては、初期対応患者が緊急手術となるような場合は、手術にも参加出来ます。また、専攻医は、病院前救護とメディカルコントロール体制を学ぶため、当院敷地内に設置されている救急ワークステーションにおいて消防救急車の医師同乗指導に参加します。

スタッフ紹介



救命救急センター長
救急科主任部長
呼吸器外科主任部長
井上 征雄
いのうえ まさお



救急科部長
平松 俊紀
ひらまつ としき



救急科部長
小児科部長
小児救急センター長
福政 宏司
ふくまさ ひろし



救急科部長
室屋 大輔
むろや だいすけ



救急科部長
北村 拓也
きたむら たくや



救急科副部長
岡本 健司
おかもと けんじ

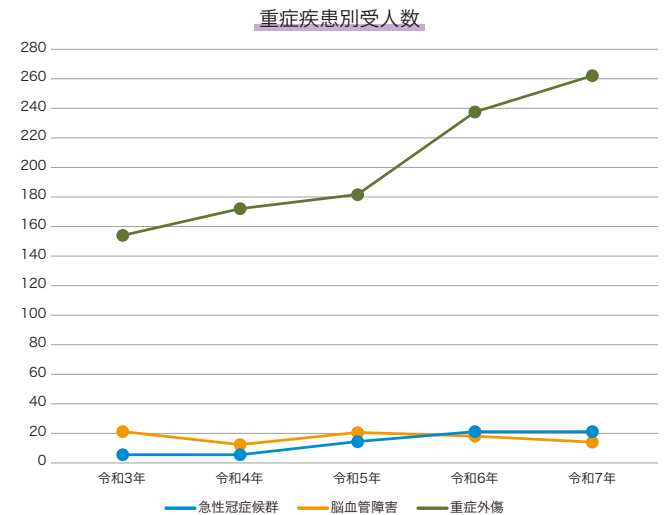
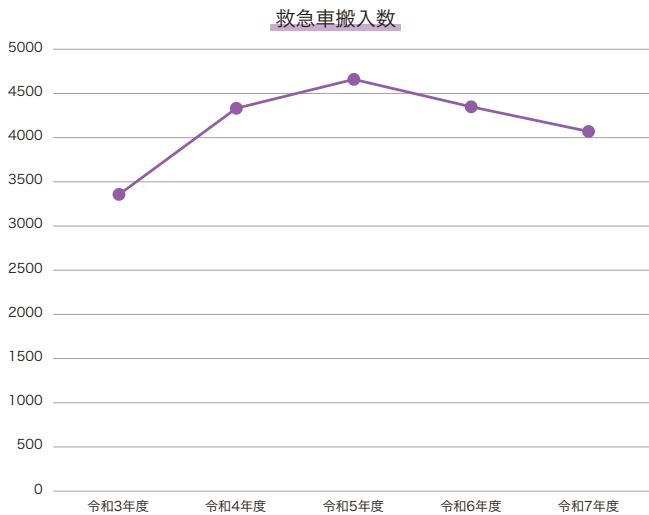
救命救急センター

令和7年度 診療実績

当救命救急センターは、北九州地域の救急救命士に対する再研修、就業前実習、薬剤認定救命士実習、救命救急九州研修所の病院実習など、年間50名以上の実習生を常時受け入れています。また、医師による診断内容の解説、救急外来・一般病棟業務、手術室業務の見学実習、臨床検査技師課、放射線技師課での研修など、搬送傷病者の病院収容後の診療経過が広く学べる体制となっています。

■常設型救急ワークステーション活動

救急ワークステーション(WS)は、平成20年6月に当院敷地内に開設されました。平日日勤帯は病院前医療、メディカルコントロール体制を熟知した当院のMC医師が常駐し、救急隊への同乗指導を行っています。



小児救急センター

センターの紹介

当センターは、24時間365日、子どもたちの急な体調不良やけがの診療を行っております。最初の診療・対応を当センターが行い、必要に応じて専門の診療科への引き継ぎを行います。また、集中治療室で重篤な子どもの病状管理や、他院で治療が必要な場合の救急車やへりによる施設間搬送のほか、院外での教育活動や災害医療にも携わるなど、幅広い活動を行っています。

センターの特徴・取組み等

1) 24時間365日体制

24時間365日、内因性(病気)、外因性(けが、中毒など)を問わず、また軽症から重症まで、すべてのお子さまへの対応を行っています。

2) トリアージシステム導入

当センターでの診療は受付順ではなく、看護師が緊急度・重症度を判断し(トリアージ)、その緊急度に応じて診療を行っています。そのため、より緊急度が高いお子さまの診察を優先しますので、お子さまの病状によっては診療の順番が前後する場合がございます。

3) 夜間・休日診療

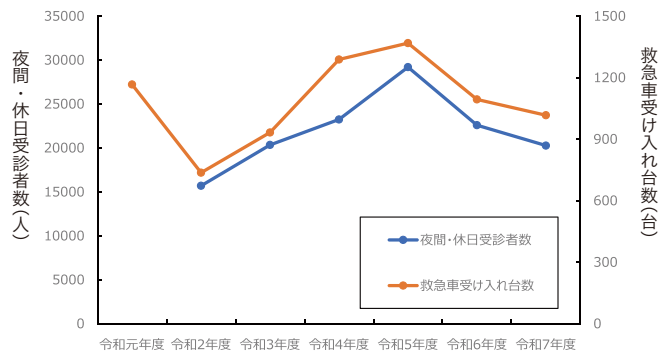
夜間・休日診療では、緊急処置を実施することを主な目的としております。詳細な検査や専門的な評価が必要な場合には、通常診療時間帯に専門診療科へ紹介しております。緊急入院治療が必要な場合には、入院のうえ、適切な検査・処置を実施いたします。また、処方原則1日分、あるいは休日明けまでとさせていただきます。継続処方が必要な場合は、翌日または休日明けに、かかりつけ医療機関を受診していただくようお願いしています。

当センターは急性期のさまざまなニーズに対応し、お子さまとその保護者の方々が安心できる医療の提供を心がけております。緊急の対応が必要と判断された際には、直接ご紹介いただくか、お電話でご相談ください。

令和7年度 診療実績

夜間・休日受診者数	20,052人
夜間・休日入院患者数	1,119人
救急車受け入れ台数	1,016台
救急車入院患者数	295人

小児救急センター診療実績の推移



スタッフ紹介



小児救急センター長
小児科部長
救急科部長
福政 宏司
ふくまさ ひろし

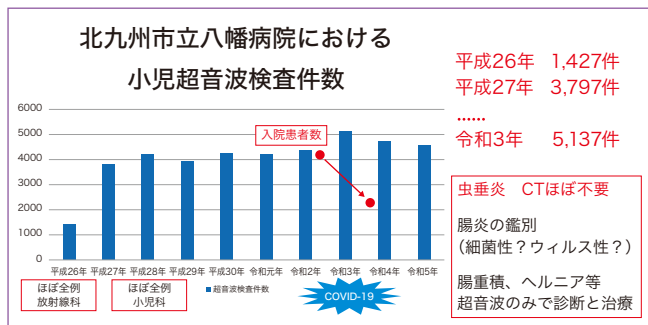
小児臨床超音波センター

センターの紹介

令和5年4月1日。日本初の小児臨床超音波センターが開設されました。『小児科医』『実臨床』の中で自ら『超音波検査』を行うセンターです。今後の小児救急医療にはこのスタイルが必要と考え平成23年から計画を進めてきたプロジェクトが形になりました。その火付け人である故 市川光太郎名誉院長は『常に謙虚に』という言葉をもットーにしておりました。当センターはその言葉を胸に、こどもたちの声なき声を超音波検査で聞く代弁者であることを心がけています。

令和7年度 診療実績

平成27年～小野友輔医師 北九州市立八幡病院勤務
令和3年以降超音波件数は4000件～5000件台を推移



センターの特徴・取組み等

自ら外来で、また当院外来担当医や近隣の先生方からご紹介いただいた患者さんに対して積極的に超音波検査を施行します。腹痛や嘔吐の原因、熱の原因はもとより、原因不明のしこり(腫瘍)や不機嫌、歩けない、など多くのご依頼をいただいています。とくに虫垂炎は診断から方針(外科コンサルト)まで、腸重積は診断から治療(超音波ガイド下整復術)まで、ほぼ全例超音波検査で完結し子ども達を被曝から守っています。

また超音波検査も臨床医が行いますので、その場で臨床的な追加

治療や追加検査の説明や方針検討も行います(ダブルアイシステム)。そして、入院や外来などすべての患者さんに超音波検査を用いてプラス1の医療を提供できないかということを日々模索しております。

また、当院には小児超音波の研鑽を希望し全国から多くの医師が研修にいられています。“一発診断をつける武器、そして“診断エラーを防ぐ防具”を得てもらうことを目標にしています。

当センターの卒業生が全国で超音波検査を駆使し活躍しています。

■小児臨床超音波センター理念

- 一 小児臨床超音波センターは常に謙虚な心を持ちチーム医療を徹底する
- 二 小児臨床超音波センターはno blame & respectの精神を持ち、どんな依頼でもthanks for callingの気持ちを持つ
- 三 小児臨床超音波センターは内因、外因関係なくこども達はすべて診させていただき思いを持つ
- 四 小児臨床超音波センターはこども達だけではなく、保護者ともがっぶり四つである
- 五 小児臨床超音波センターはこども達の代弁者という思いを持ち、プローブを通して、その声なき声を聞く

■当院小児臨床超音波センターが取材されました。

INNERVISION (株)インナービジョン

Cannon clinical report 01 侵襲なく全身を診られる超音波検査で子ども達の声なき声を聞く小児臨床超音波の実践

https://www.innervision.co.jp/ad/suite/canonmedical/clinicalreport/2501us?utm_campaign=mokujiura2501us&utm_medium=middlebanner&utm_source=top

■youtubeで腸重積の整復方法をのせています。

■小児腸重積の超音波講義(小児科：小野医師)_NO,0001

<https://youtu.be/VpcQf2Ggftk>

■小児腸重積の整復実践(小児科：小野医師)_NO,0002

<https://youtu.be/lh8n-arVcdY>

スタッフ紹介



小児臨床超音波センター長
小児科部長

小野 友輔
おの ゆうすけ

小児科専門医・指導医で日本超音波医学会(総合領域)専門医・指導医を保持している医師は全国でも数名です。学会での講演、シンポジウムをはじめ全国から講演やハンズオンセミナーの依頼をいただいています。

■資格、役職

日本小児科学会専門医・指導医、日本超音波医学会(総合領域)専門医・指導医、日本超音波医学会教育委員会、専門医制度委員会
小児超音波研究会理事、茨城こどもECHOゼミナール理事、スクリーニングネットワーク理事

■受賞歴

平成27年、平成28年 超音波医学会(九州ブロック)
YIA(young investigators award) 最優秀賞(二年連続)
平成29年 第26回 canonメディカルシステムズ 画論 優秀賞
平成30年 小児超音波研究会 best image 最優秀賞
令和元年 第27回 キヤノンメディカルシステムズ 画論 最優秀賞受賞
令和3年 第29回 キヤノンメディカルシステムズ 画論 優秀賞
他、エコー研修生達の超音波関連発表、受賞多数

■執筆

浅井塾直伝!できる小児腹部エコー(羊土社)
小児超音波診断のすべて(メジカルビュー社)
腸重積ガイドライン(第二版)(ヘルス出版)
小児の身体診察×エコー 超入門(診断と治療社)
他多数

■令和7年度業績

【講演・ハンズオンセミナー講師】
#1 大分こども病院実践レクチャー
小児臨床超音波の扉を開けば

#2 第428回 福岡東部地区小児科医会
第221回 宗像小児科医会 合同開催 特別講演
小児臨床超音波の扉をひらくと

#3 第二回知っておきたい小児疾患カンファレンス
知っておきたい小児“エコー”カンファレンス
～小児臨床超音波の扉を開くと～

#4 第98回 日本超音波医学会学術集会
教育セッション 小児初級
実録 超音波を駆使した小児診療の日々 入門編

#5 第18回 広島小児超音波研究会
小児臨床超音波の扉を開くと 広島市

#6 第61回 日本小児放射線学会 ランチョンセミナー
小児医療におけるプレパレーション 課題とこれから～USでの取り組み～

#7 大分こども病院実践レクチャー
USダイバー ～小児臨床超音波で荒波にダイブする～

#8 第17回 日本ポイントオブケア超音波学会学術集会
徹底討論 小児疾患の画像評価 エコーVS CT/MRI

#9 第16回 日本子ども虐待医学会学術集会 教育講演5
子ども虐待と骨・軟部組織超音波検査～こども達の代弁者となるために～

#10 大分こども病院実践レクチャー
USダイバー 再び さらに深層へ

#11 第20回 小児医療ワークショップin北九州
講演：小児臨床超音波物語 2025

#12 第10回 小児超音波研究会学術集会
ランチョンセミナー “キヤノンメディカルシステムズとポケモンと私”

#13 シンポジウム 賛否両論!小児エコー習得への道
いかにして身につけたか、身につけさせたか
講演：シンポジウムS-3 エコー習得への“道” ～代弁者としての覚悟～

#14 大分こども病院実践型勉強会
覚悟をもって向き合う小児臨床超音波

#15 大分こども病院実践型勉強会
これから出会う小児臨床超音波物語 2026

#16 茨城こどもECHOゼミナール ハンズオンセミナー 講師

【座長・司会】

#1 第98回 日本超音波医学会学術集会
特別プログラム シンポジウム
普救使いの超音波、何を診て何をすべきか

#2 第38回 日本小児救急医学会
一般演題(口演) 栄養・消化器・肝胆膵1

#3 シンポジウムS-1
小児エコーができる、とは

#4 シンポジウムS-2
医師と技師のUS研修の考え方とその違い

【執筆】

#1 画像診断 Vol.45 No.14 2025 Gakken 広告
小児医療におけるプレパレーションの課題とこれから

#2 医学のあゆみ 第296巻・第6号(Vol.296 No.6 603-611)
小児急性腹痛での超音波検査(US)活用法～子どもたちの代弁者となるために

消化器・肝臓病センター

センターの紹介

～消化器疾患・肝臓疾患の専門医・薬剤師・看護師が連携して診療します～

消化器・肝臓病センターは平成23年11月に各種消化器疾患・肝臓病を総合的に、専門的に、かつ先進的に医療を行うため開設されました。胃癌、大腸癌、肝臓癌、胆嚢癌、膵臓癌、胆管癌等の悪性腫瘍に加えて、胃・十二指腸潰瘍、胆石症、ウイルス肝炎、肝硬変、脾腫、食道静脈瘤、肺炎、胃・十二指腸逆流症、大腸ポリープ、大腸憩室症等の良性疾患に対して消化器内科、消化器外科、放射線科の各診療科の密で機動的、横断的な連携により、高度な診療体制を構築するとともに、がん薬物療法認定薬剤師や看護師等とともにチームワーク良く診療を行っています。

また、救命救急センターと密な連絡をとり、腹膜炎、急性胆管炎、急性胆嚢炎、急性膵炎、急性腸炎等の急性腹症、吐血、下血、腹部外傷なども消化器の専門性を活かしながら、診療を行っております。

開設後すでに15年経過しましたが、手術件数、内視鏡件数、癌化学療法件数、緊急入院件数等は順調に増加しており、地域の皆様に役に立つ消化器疾患、肝臓疾患の専門センターとして今後とも機能していく予定です。

さらに、新病院移転後の平成30年12月からは、西日本最大の広さと機能を持つ血管造影とCT撮影を備えた手術室(ハイブリッドオペレーションルーム)を新設し、出血疾患や外傷に対応するとともに、塞栓手術やCT併用の腫瘍焼灼術なども症例を伸ばしています。

診療の3本柱

- (1)放射線専門医、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医、肝臓専門医、消化器外科専門医による検査・診断
- (2)消化器内視鏡専門医、消化器がん外科治療認定医、消化器外科専門医、肝胆膵外科高度技能指導医、内視鏡外科学会技術認定医等による内視鏡治療、腹部各領域のがん手術、腹腔鏡手術、放射線専門医が行うカテーテル治療
- (3)がん化学療法認定医、がん治療認定医(教育医)、消化器病専門医、肝臓病専門医、がん薬物療法認定薬剤師や看護師が共同で行う、がん化学療法、分子標的治療、肝炎インターフェロン治療、肝炎抗ウイルス療法(インターフェロンフリー療法)等の薬物治療

スタッフ紹介



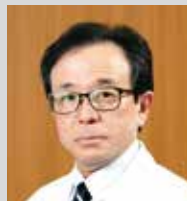
病院長
消化器・肝臓病名誉センター長
感染制御室長

岡本 好司
おかもと こうじ



消化器・肝臓病センター長
統括部長

野口 純也
のぐち じゅんや



統括部長
医療情報管理室長
ベッドコントロール室長

木戸川 秀生
きどがわ ひでお



消化器外科主任部長

上原 智仁
うえはら としひと



外科主任部長

山吉 隆友
やまよし たかとも



小児外科主任部長

新山 新
しんやま しん



外科部長

又吉 信貴
またよし のぶたか



外科部長

沖本 隆司
おきもと たかし



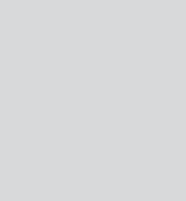
放射線科主任部長

今福 義博
いまふく よしひろ



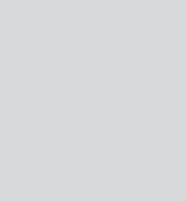
放射線科

神崎 修一
こうざき しゅういち



内科

馬場 三男
ばば みつお



薬剤課課長
(がん薬物療法認定薬剤師)

原田 桂作
はらだ けいさく

薬剤課課長
(がん薬物療法認定薬剤師)
末吉 宏成
すえよし ひろあき

感染管理担当係長
(感染感染感知認定看護師)
中川 祐子
なかがわ ゆうこ

外来副看護師長
(がん薬物療法看護認定看護師)
福永 聡
ふくなが さとし

外来看護師
(肝炎医療コーディネーター)
秋吉 美紀
あきよし みき

外来看護師
(肝炎医療コーディネーター)
荒牧 昌子
あらまき まさこ

災害外傷外科、外傷・形態修復・治療センター

センターの紹介

外傷やその他の形態異常によって、患者さんはQOL(クオリティオブ ライフ、生活の質)を損なわれることがあり、身体の形態におよんだ変化によって患者さん自身には様々なストレスを生じることになります。

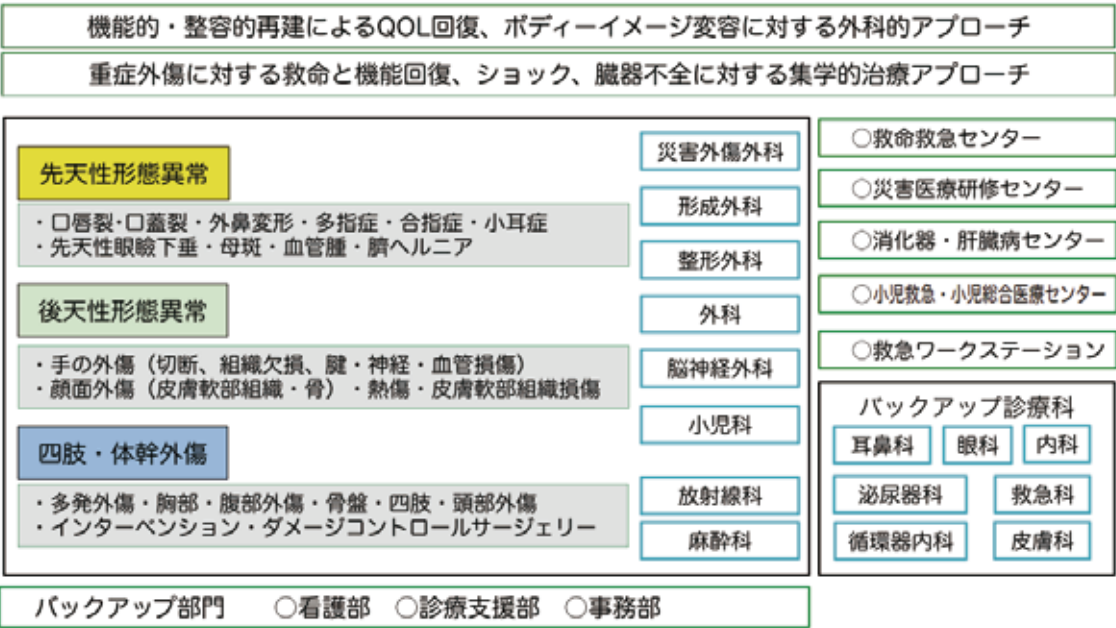
「外傷・形態修復・治療センター」では、先天的な形態異常や後天的な外傷・手術後の変形などに対し、チームとして機能的・整容的な再建を行うことで患者さんのQOL回復を目指します。

特徴・強み

事故災害等で発生する外傷に対して、主に救命救急センター、小児救急・小児総合医療センターが24時間体制で窓口となり、当センターの関連各科が滞ることなく連携し、初期から回復期まで専門的な治療を繋げて行くことができます。

災害外傷外科は、外科系外傷治療に加え、IVRやショック、急性腎不全などの集学的治療も担っています。

組織様式と主な対象疾患



※災害外傷外科は、外科系外傷治療に加え、IVRやショック、急性腎不全など集学的治療を担う

スタッフ紹介



外傷・形態修復・治療センター長
副院長
医療安全管理室長
田崎 幸博
たさき ゆきひろ

小児睡眠時無呼吸センター

センターの紹介

令和7年10月、市立八幡病院に小児睡眠時無呼吸症候群を専門的に診療する「小児睡眠時無呼吸センター」を開設しました。小児科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、麻酔科が横断的に連携し、正確な診断から安全性の高い治療までを一貫して提供する体制を整え、お子さんの健やかな成長と良質な睡眠の確保を支援しています。

センターの特徴・取組み等

当センターの最大の特徴は、小児睡眠時無呼吸症候群に対し、診断から治療、周術期管理までを一貫して行う集学的診療体制にあります。初診時には詳細な問診、診察、画像検査、簡易PSG(ポリソムノグラフィー)検査を行います。簡易PSG検査とは、睡眠障害や睡眠時無呼吸の評価をご自宅で行うことのできる簡易検査です。お子さんの就寝中の呼吸状態、いびき、血中酸素濃度、脈拍などを測定し、手術の適応の有無を正確に判定いたします。小児では無呼吸指数が軽度であっても睡眠の質が低下し、成長や学習、行動面に悪影響を及ぼすことが知られており、小児科と連携することで早期の治療介入を可能としています。

治療の中心は、アデノイド増殖や口蓋扁桃肥大による上気道閉塞に対する外科的治療になります。手術適応がある場合は、ご家族の希望や学業への影響を考慮し、入院日程を柔軟に調整するように心がけています。

全身麻酔は小児麻酔に精通したベテラン麻酔科医が担当し、愛護的な麻酔管理により術後出血など合併症の低減を図っています。執刀は指導医資格を有する経験豊富な耳鼻咽喉科医が行い、術後は小児科医が疼痛管理を含め手厚く対応します。安全性と専門性を両立した診療体制により、地域医療機関と連携しながらお子さんの健やかな成長と良質な睡眠の獲得に貢献してまいります。

令和7年度 診療実績

令和7年4月～令和8年3月	
両口蓋扁桃摘出術	74例
アデノイド切除術	31例

スタッフ紹介



小児睡眠時無呼吸センター長
耳鼻咽喉科・頭頸部外科主任部長

大久保 淳一
おおくぼ じゅんいち

診療支援部

薬剤課

部門の紹介

薬剤課は、薬学的視点から医薬品の有効性・安全性を確保し、24時間体制で救急医療とチーム医療に貢献しています。がん薬物療法認定薬剤師や外来がん治療認定薬剤師を中心に抗がん剤の無菌調製やレジメン管理を行い、安全な化学療法を提供しています。抗菌化学療法認定薬剤師を含む感染チームが感染制御を担い、医薬品安全管理者やリスクマネジャーを中心としたメンバーが医療安全・医薬品安全を推進しています。医療薬学専門薬剤師やDMAT（業務調整員）、NST専門療法士、各種療養指導士も活躍し、専門資格取得を支援しています。地域医療機関・薬局との連携強化にも取り組んでいます。

主な業務内容

- 処方監査や自動化機器を活用し、安全な調剤と注射薬の1施用払い出しを実施
- 外来でがん治療説明や吸入薬・皮下注デバイス指導を担当
- 入院支援センターで常用薬・休薬薬剤の確認と情報提供
- 病棟では持参薬確認、処方提案、カンファレンス・回診同行など継続的な薬学的管理を実施
- 抗がん剤無菌調製、TDM、治験薬管理、製剤業務、薬事委員会運営、IRBなど多岐にわたり薬物療法を支援

特徴・強み等

当課は小児薬物療法に注力しており、小児薬物療法認定薬剤師を中心としたメンバーが患児と保護者へ専門的な説明・助言を行っています。小児領域では、長期に及ぶがん化学療法の管理、成長ホルモンや吸入デバイス指導、糖尿病療養支援、臨床試験など多様な業務を担い、成人とは異なる難しさがあります。特に小児がん化学療法を専門的に実施できる施設は全国的にも少なく、当院の強みとなっています。薬剤師が治療に密接に関わることで患児・家族のQOL向上やレジメン遂行率の向上が期待されます。成人患者にも同様に手厚い病棟薬剤業務を提供し、退院後も同様の薬物療法が担保されるように八幡薬剤師会と連携して薬業連携会を開催しています。また、薬学生教育にも力を入れ、年間最大9名の薬学部の実習生を受け入れ育成しています。

令和7年度 業務実績

業務内容	実績数
処方箋枚数(入院)	5309.1 枚 / 月
処方箋枚数(外来)	6012.2 枚 / 月(うち院外 5965.0 枚 / 月)
注射処方箋件数(入院)	22790.3 枚 / 月
注射処方箋件数(外来)	1705.3 枚 / 月
抗がん剤調製件数	870 件
がん患者管理指導料3算定件数	29 件
連携充実加算算定件数	199 件
病棟薬剤業務加算1算定件数	15176 件
薬剤管理指導算定件数	
薬剤管理指導料(325 点)	6525 件
薬剤管理指導料(380 点)	7261 件
退院時薬剤情報管理指導料	5456 件
麻薬管理指導加算	76 件
TDM解析業務件数	150 件
吸入指導件数	302 件
自己注射指導件数	94 件
SMBG・CGM指導件数	33 件
褥瘡ハイリスク患者ケア加算介入件数	1321 件
特別食算定介入件数	210 件
入院支援センター面談件数	467 件
薬学部実務実習生受け入れ	4 名

現在のスタッフ資格認定状況

専門認定資格名	人数
認定実務実習指導薬剤師	5 名
日本医療薬学会認定医療薬学専門薬剤師	1 名
日本栄養治療学会認定 NST 専門療法士	2 名
日本病院薬剤師会認定がん薬物療法認定薬剤師	1 名
日本臨床腫瘍薬学会認定外来がん治療認定薬剤師	2 名
日本化学療法学会認定抗菌化学療法認定薬剤師	1 名
日本麻酔科学会認定周術期管理チーム薬剤師	2 名
小児薬物療法認定薬剤師	2 名
漢方薬・生薬認定薬剤師	1 名
アレルギー疾患療養指導士	1 名
日本循環器学会認定心不全療養指導士	2 名
腎臓病療養指導士	1 名
日本糖尿病療養指導士(CDEJ)	2 名
福岡県糖尿病療養指導士(LCDE)	1 名
日本薬剤師研修センター認定薬剤師	9 名
日本病院薬剤師会病院薬学認定薬剤師	3 名
福岡県 DMAT	1 名
医療安全管理者養成講座修了者	2 名

スタッフ紹介



薬剤課課長
原田 桂作
はらだ けいさく

臨床検査技術課

部門の紹介

臨床検査技術課は男性8名、女性19名の臨床検査技師と、受付担当の女性2名、事務補助者1名で業務にあたっています。20～30歳代の技師が約半数を占め、定年退職後再任用として頑張っている技師もいます。検査を通して病院機能に貢献できるよう、誠実に真心を込めて検査に取り組み、皆様に安心・信頼される臨床検査技術課を目指し、全スタッフで日々努力しています。また、臨床検査技師を目指す学生の臨地実習を受け入れ、臨床検査技師育成にも貢献しています。

主な業務内容

■一般検査

尿・便・髄液・体腔液等の一般スクリーニング、ウイルス抗原迅速検査、遺伝子検査

■病理学的検査

組織検査、細胞検査、病理解剖

■血液学的検査

血球数算定・分類、凝固線溶系検査

■生化学的検査

血液化学検査、内分泌学的検査、腫瘍マーカー、感染症免疫学的検査

■生理機能検査

超音波検査、心電図検査、聴力検査、脳波検査、肺機能検査

■輸血検査

血液型、不規則性抗体スクリーニング検査、交差適合試験

■細菌学的検査

一般細菌培養・同定・感受性、抗酸菌培養・同定、遺伝子検査

特徴・強み

検体検査は全てバーコード管理されており、各々の検査機器がバーコードを読み取り検査を実施する事で、検体の交差を防止しています。また、少ない採血量で検査を実施できる機器を導入しており、患者さんの負担軽減も考え業務を行っています。生理機能検査は、患者さんと直接接する検査なので、患者さんに対して十分な説明を行い、安心して検査を受けていただけるよう心がけています。

入院患者全例を対象とした新型コロナウイルス遺伝子検査は、令和7年12月26日より中止しましたが、発熱・咳・咽頭痛・倦怠感等の症状が認められる場合や新型コロナウイルス感染者との接触歴がある場合、また医師が臨床的に必要と判断した場合は、遺伝子検査を実施し、診療に貢献しています。

病院の掲げる政策医療である救命救急医療と小児救急医療にも対応すべく夜勤者を2名配置し、24時間365日検査ができる体制をとっています。また、災害支援医療に関しては、災害派遣医療チーム(DMAT)にも参加しており、定期的な訓練等も行っています。

令和7年度 業務実績

検査部門別件数

	一般検査	生化学検査	血液検査	生理検査	病理検査	細菌検査	時間外検査	総件数
4月	13,388	46,783	17,460	1,459	847	1,957	20,497	102,391
5月	14,071	48,605	18,290	1,414	881	2,224	24,252	109,737
6月	15,727	51,322	19,486	1,692	985	2,518	23,194	114,924
7月	17,523	57,171	21,886	1,685	1,117	2,878	23,335	125,595
8月	15,383	53,699	20,291	1,607	1,066	2,816	24,809	119,671
9月	14,502	50,603	18,790	1,540	1,144	2,264	21,336	110,179
10月	15,260	52,226	19,274	1,538	1,169	2,561	20,564	112,592
11月	12,941	43,710	16,539	1,321	974	2,299	25,111	102,895
12月	15,301	52,264	19,440	1,620	998	2,503	27,955	120,081
1月	14,213	46,221	17,455	1,521	878	2,139	25,038	107,465
2月	14,227	45,498	16,854	1,387	983	2,068	22,817	103,834
3月	16,147	54,392	19,985	1,763	1,127	2,010	21,591	117,015
合計	178,683	602,494	225,750	18,547	12,169	28,237	280,499	1,346,379
月平均	14,890	50,208	18,813	1,546	1,014	2,353	23,375	112,198

外来・入院別件数

	一般検査		生化学検査		血液検査		生理検査		病理検査		細菌検査	
	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院
4月	10,837	2,551	31,023	15,760	10,862	6,598	1,227	232	256	591	1,353	604
5月	11,075	2,996	30,344	18,261	10,675	7,615	1,145	269	319	562	1,432	792
6月	12,524	3,203	33,454	17,868	11,884	7,602	1,438	254	387	598	1,703	815
7月	13,276	4,247	35,351	21,820	12,501	9,385	1,415	270	345	772	1,876	1,002
8月	11,987	3,396	32,948	20,751	11,580	8,711	1,344	263	373	688	1,559	1,257
9月	11,215	3,287	31,695	18,908	11,098	7,692	1,314	226	427	717	1,386	878
10月	11,831	3,429	33,842	18,384	11,732	7,542	1,341	197	464	705	1,665	896
11月	9,866	3,075	26,838	16,872	9,593	6,946	1,090	231	367	607	1,453	846
12月	11,481	3,820	33,017	19,247	11,426	8,014	1,402	218	358	640	1,512	991
1月	10,721	3,492	29,054	17,167	10,210	7,245	1,295	226	409	469	1,196	943
2月	10,612	3,615	27,741	17,757	9,617	7,237	1,176	211	395	588	1,271	797
3月	12,430	3,717	34,904	19,488	12,056	7,929	1,544	219	445	682	1,197	813
合計	137,855	40,828	380,211	222,283	133,234	92,516	15,731	2,816	4,545	7,619	17,603	10,634
月平均	11,488	3,402	31,684	18,524	11,103	7,710	1,311	235	379	635	1,467	886

資格認定者数

資格名	人数
細胞検査士	5名
認定超音波検査士	6名
認定輸血検査技師	1名
健康食品管理士	2名
食の安全管理士	1名
有機溶媒作業主任者	4名
特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者	3名
認定臨床微生物検査技師	2名
感染制御認定臨床微生物検査技師	2名
認定血液検査技師	1名
特定病原体等の運搬責任者	2名
福岡県糖尿病療養指導士	1名
二級臨床検査士（微生物学）	2名
福岡県DMAT	1名
日本DMAT	1名
緊急臨床検査士	1名
肝炎医療コーディネーター	1名
医療安全管理者	2名
臨地実習指導者	1名
二級臨床検査士（循環生理学）	1名
精度管理責任者	1名

スタッフ紹介



臨床検査技術課課長
荒木 猛
あらき たけし

放射線技術課

部門の紹介

放射線技術課は診療放射線技師23名で構成され、24時間体制で放射線業務を行っています。

主な検査内容はX線撮影、CT検査、MRI検査、RI検査、透視検査、血管造影検査、心血管造影検査です。患者の負担軽減を考慮しつつ質の高い検査を行い、診療の支援が出来るよう努めています。

機器および運用を整備し、高度医療機器の共同利用のお役に立てると考えております。地域医療機関からの検査依頼をお願いいたします。

感染対策にも十分に注意してまいります。

主な業務内容

- ① X線撮影(4室)：一般撮影、デンタル、マンモグラフィ
- ② 骨密度測定(1台)
- ③ CT検査(256列：1台、64列：1台)
- ④ MRI検査(1.5テスラ：1台)
- ⑤ RI検査(1台)
- ⑥ 透視検査(2台)
- ⑦ 血管造影検査
(血管造影装置とCT装置のハイブリッド手術室：1室)
- ⑧ 心血管造影検査(2台)

特徴・強み等

放射線技術課では、各部門にチーフ担当者を配置し、特にCT検査、MRI検査部門には認定技師を配置しており、質の高い検査を心掛けています。学会や研修に参加し、知識や技術の向上に励んでいます。

また、医療放射線被ばくの管理は大きな役割だと考えており、診療に適した検査を行いつつ、放射線被ばくを低減するよう取り組んでまいりました。その結果、「医療被ばく低減施設」の認定を取得しました。福岡県では7番目、北九州市では2番目の認定となり、北九州市立八幡病院の努力の成果だと自負しております。

地域医療、救急医療に貢献できるよう、すべての救急検査に対応できる診療放射線技師を育成し、24時間体制で対応しています。患者とスタッフの安全を第一に考え、感染対策を徹底し、診療の一助となるよう努めてまいります。

令和7年度 業務実績

R7年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般撮影	2,647	2,787	2,845	3,149	3,090	2,799	2,834	2,690	2,984	2,738	2,602	2,883	34,048
透視	148	160	149	143	134	135	148	162	158	166	149	158	1,810
CT	778	799	875	855	871	787	834	754	860	822	790	920	9,945
MRI	264	265	245	273	253	248	269	222	245	255	264	290	3,093
RI	23	15	26	22	19	15	18	14	16	20	12	19	219
血管造影	6	4	1	8	2	1	6	3	2	3	5	6	47
心カテ	14	11	16	14	19	14	13	12	19	14	20	18	184
MMG	12	8	6	11	2	11	13	8	6	9	9	15	110
骨塩	29	18	34	31	27	31	37	33	23	21	18	41	343

現在のスタッフ資格認定状況

業務内容	実績数
第1種放射線取扱主任者	4名
検診マンモグラフィ撮影認定	3名
磁気共鳴専門技術者	4名
X線CT認定技師	7名
Ai認定	2名
画像等手術支援認定	6名
救急撮影認定技師	2名
放射線管理士	3名
放射線機器管理士	2名
医療情報技師	1名
医療安全管理者養成研修修了者	2名

スタッフ紹介



放射線技術課課長

樽林 斉

くればやし ひとし

リハビリテーション技術課

部門の紹介

■基本理念

地域医療支援病院、急性期病院として安全で質の高いリハビリテーション医療を提供致します。

■基本方針

- ①患者さんに寄り添ったリハビリを提供致します。
- ②科学的根拠に基づいたリハビリをより早期から行います。
- ③リハビリを継続する事で患者さんの機能回復・日常動作や生活の質向上に努めます。
- ④多職種との連携を行い、患者さんを総合的にサポート致します。

リハビリテーション技術課では、主に入院患者さんに対して、主治医の指示により、リスク管理を行いながら急性期・早期リハビリテーションを実施しております。また、多職種で患者さんの機能回復・ADL向上に関わり、自宅退院や回復期病院転院などを目指しております。昨年度スタッフが増え、より充実したリハビリテーションを提供していきます。

■在籍スタッフ

理学療法士12名、作業療法士9名、言語聴覚士3名、受付3名

主な業務内容

- リハビリ診療：疾患別リハビリテーション（運動器疾患、呼吸器疾患、脳血管疾患、心大血管疾患、廃用症候群）、がんのリハビリテーション、摂食・嚥下療法など。
- ICU、HCU等での早期離床・リハビリテーション介入。
- チーム医療への参加（全病棟に専従スタッフ配置、各種チームラウンド・カンファレンス・回診など）
- 各種委員会への参加
- 地域リハビリテーションへの参加

特徴・強み

当院は急性期の地域支援病院で一般診療、小児科など、様々な疾患の患者さんを受け入れている特徴があります。

平成30年12月の新病院移転より、整形外科疾患の人工関節手術や関節内の手術などが行われるようになりました。また昨年度より、肩関節の手術も行われています。

あらゆる手術に対して、術前・術後のリハビリテーションを積極的に行い、患者さんのQOL向上につなげていけるよう努めています。

リハビリテーション技術課では病棟専従スタッフを全病棟に配置し、入院早期よりリハビリ介入に取り組んでいます。

今年度より、土日祝を含め365日のリハビリテーションを行っています。

｜ スタッフ紹介 ｜



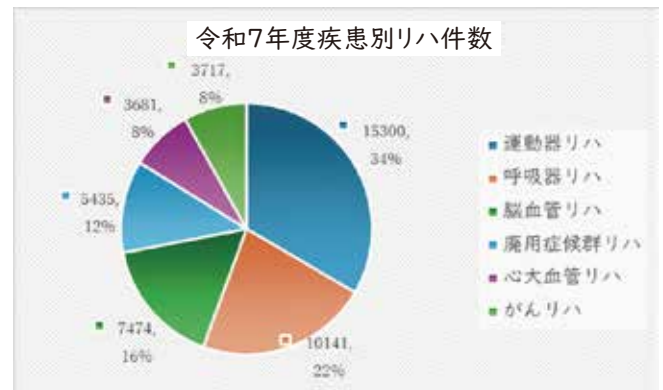
リハビリテーション技術課
課長

武田 隆次
たけだ りゅうじ

令和7年度 業務実績

令和7年度 疾患別リハ

総件数：45,748件 総新患者数：2,477名(ST691)



現在のスタッフ資格認定状況

※専門資格認定別に認定数をご教示下さい。

専門資格名	人数
3学会合同呼吸療法認定士	PT 5名、OT 2名
心臓リハビリテーション指導士	PT 2名
がんのリハビリテーション研修終了	PT12名、OT7名、ST2名
介護支援専門員(ケアマネージャー)	PT2名、OT2名
認定理学療法士(運動器)	PT 1名
A-ONE認定評価者	OT 1名
失語症者向け意思疎通支援者	ST 1名
福祉住環境コーディネーター 2級	PT1名、OT 2名
骨粗しょう症リエゾンマネージャー	OT1名
精密知覚機能検査講習受講者	OT3名
医療安全管理者養成講座修了者	PT1名、OT1名
地域個別ケア会議推進リーダー	PT2名
臨床実習指導者研修修了者	PT5名、OT5名

栄養管理課

部門の紹介

安心安全でおいしい食事の提供を心がけています。

患者さんの病態に応じて食事の内容は異なりますが、食事を楽しんでいただけるように、献立に季節感を盛り込み、行事食にはカード等を添えて提供しています。

また、栄養管理計画に沿った栄養摂取、治療の達成のために、しっかり喫食していただけるよう、患者さんの声も参考により良いものにしていきます。

食事提供業務の一部を委託しています。

主な業務内容

■給食管理業務

給食管理業務を一部委託し、委託会社と協働で行っています。

■栄養管理業務

入院診療計画書で「特別な栄養管理の必要性有り」と評価された患者さんに対して栄養管理計画書を作成し、入院から退院まで定期的に栄養評価しています。

■栄養指導業務

入院・外来患者さんに栄養食事指導を行っています。

■チーム医療

栄養サポートチーム、緩和ケアチーム、褥瘡ケアチーム等

特徴・強み等

食種に制限はありますが、年末年始を除く毎日、朝・夕に選択できる食事を提供しています。

食物アレルギー等に対応するため、個別に献立を作成することもあります。

小児科医、看護師とともに小児がん患者さんの食欲不振に対応できるような食事を考え、提供しています。内容については随時更新しています。

言語聴覚士、摂食嚥下障害看護認定看護師とともに患者さんの摂食嚥下状態に沿った食事の提供を心がけています。

随時病棟を訪問し、患者さんの状況を確認し、主食の形態や量の変更のほか、栄養補助食品などの提供を行い、栄養摂取につなげるように努めています。

チーム医療の一員として、栄養サポートチーム・褥瘡・外科回診、ICU・脳神経外科・小児科・循環器内科カンファレンスなどに参加しています。

的確に対象者を把握し、速やかに評価や介入を行える体制の必要性や生活習慣病の増加等に対する効果的・効率的な疾病管理及び重症化予防の取組の推進がますます求められています。そのため、今後とも職種と連携して患者さんの栄養管理を行っています。

令和7年度 業務実績

業務内容	件数
外来・入院栄養食事指導	882
栄養サポートチーム加算	176
病棟訪問	6,554

現在のスタッフ資格認定状況

専門資格名	人数
福岡県糖尿病療養指導士	3名
アレルギー疾患療養指導士	3名
小児栄養分野管理栄養士	1名
病態栄養専門管理栄養士	2名

スタッフ紹介



栄養管理課係長
中山 由紀子
なかやま ゆきこ

臨床工学課

部門の紹介

臨床工学課には、臨床工学技士7名が在籍しています。臨床工学技士は現在の医療に不可欠な医療機器の専門職です。チーム医療の一員として診療技術支援および医療機器管理業務を行っています。医療の進歩に伴い、医療機器はますます複雑化し、その専門性も増えています。当課は、これらの機器を使用した検査や治療が安全かつ効果的に行われるよう基盤整備を担っています。

主な業務内容

- 医療機器管理業務
- 手術室業務
- 内視鏡室業務
- 循環器関連業務
- 人工呼吸器関連業務
- 各種血液浄化療法
- 造血幹細胞採取
- チーム医療活動
- 医療機器安全管理責任者業務

特徴・強み等

手術室、内視鏡室、心臓カテーテル検査室、重症系病棟、一般病棟において、医療機器の専門家の目線で診療技術支援を行う事でその体制を支えており、関連する学会認定資格等も積極的に取得しています。当院は救命救急センター、小児救急・小児総合医療センターを有するため、緊急の手術・治療にも対応しています。

医療機器管理業務としては手術・検査・治療・療養の各場面で使用する医療機器の導入時評価や導入後の使用方法の周知に始まり、保守点検やトラブル対応、修理窓口、廃棄評価までを一手に担い、医療機器安全のマネジメントを行っています。医療機器の安全使用のための環境整備や教育、機器運用の効率化によるコスト削減も当課の重要な役割です。

令和7年度 業務実績

業務内容	実績数
医療機器日常点検	35,464件
医療機器定期点検	945件
トラブル対応	301件
医療機器登録	180件
内視鏡介助業務	840件
内視鏡スコープ洗浄業務	850件
内視鏡消毒装置管理	10件
人工呼吸器使用中点検	1114件
血液浄化関連業務	82件
幹細胞採取	1件
医療機器修理点検	353件
手術器械出し業務	93件
神経モニタリング業務	16件
術後疼痛管理チームラウンド	179件
麻酔科準備補助業務	1385件
心カテ検査・治療関連業務	201件
補助循環管理業務	2件
ペースメーカ遠隔モニタリング	684件
ペースメーカチェック	199件
医療安全ラウンド	14件
医療機器運用マネジメント(試用・導入検討・登録・廃棄・運用・情報収集)	
人工呼吸器関連業務(安全管理・提案・指導・教育)	
その他業務(各種委員会・チーム活動/医療安全ラウンド/医療機器研修会)	

現在のスタッフ資格認定状況

専門資格名	人数
消化器内視鏡技師	1名
周術期管理チーム臨床工学技士	2名
3学会合同呼吸療法認定士	1名
透析技術認定士	1名
第2種ME技術者	6名
医療機器情報コミュニケーター(MDIC)	1名

スタッフ紹介



臨床工学課技師長
春藤 毅之
しゅんどう つよし

看護部

看護部

看護部長挨拶

日頃より、北九州市立八幡病院に対し、ご理解、ご支援を賜りまして地域の医療従事者の皆様および地域の皆様に感謝申し上げます。

八幡病院は、公立病院として24時間365日、救命救急医療、小児救急医療、災害医療支援に対応します。そのために看護部として、看護の専門性を発揮し、質の高い看護を提供すること、患者さんがご希望した場所で生活できるように、地域との連携を強化していくことが重要です。また、めざす看護を行うためには、経験豊富な看護師を育成することが不可欠です。八幡病院ですばらしい看護師に出会えてよかったと思っていただけるように看護職員一同努力して参ります。

今後とも、皆様方のご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。

【令和8年度 看護部目標】

1. 安全で質の高い看護の提供
2. 地域連携を強化した看護サービスの提供
3. 健康で安全に働き続けられる職場づくり
4. 病院経営への積極的な参画

看護部の方針

八幡病院看護部は、救急医療の役割を担う病院としてチーム医療を推進し、円滑・効率的に協働するために研鑽を図り専門職として、倫理に基づいた科学的かつ主体性のある看護を目指しています。

【看護部方針】

- 1) 笑顔で相手の立場に立った看護を提供します
- 2) 自己研鑽に努め知識・技術の向上を図ります
- 3) 事故防止と感染予防に努め、安全な看護を提供します
- 4) 快適な療養環境を整え、患者サービスの向上を図ります
- 5) 地域との連携を図り、継続看護に努めます
- 6) 病院の健全経営に参画します

新卒看護師教育スケジュール

4月	入職時研修 看護技術研修
5月	コミュニケーションスキルⅠ、重症度、医療・看護必要度、診療報酬Ⅰ
6月	フィジカルアセスメントⅠ、ハラスメント防止、自己分析・ストレス発散法
7月	スキンケアⅡ、看護過程Ⅱ
8月	災害看護Ⅰ、急変対応Ⅰ
9月	感染管理Ⅱ、輸血の取り扱い
10月	医療安全Ⅱ、多重課題Ⅰ
11月	摂食・嚥下障害の看護Ⅰ、退院支援・調整Ⅰ
12月	患者の心理、逝去時の看護
2月	事例発表会、今後の課題

看護部の理念

「救急医療の中核としての役割のもとに、生命の尊厳・人間性を尊重した、こころ温かい看護を提供します。」

教育体制について

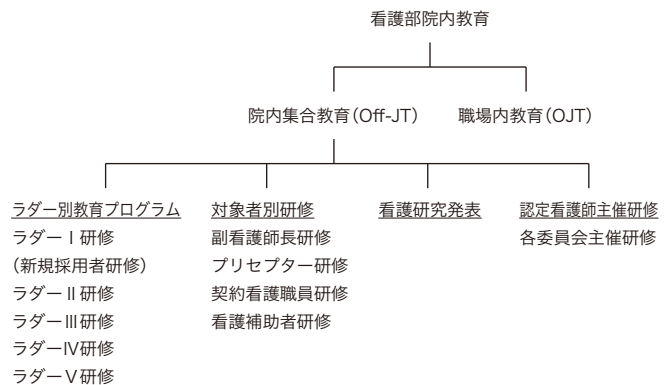
【教育理念】

北九州市立八幡病院の看護部の理念に基づき、専門職業人として時代の変化に対応でき、市民に信頼される質の高い看護が提供できる看護師を育成する。

【教育目的】

北九州市立八幡病院看護部の一員として責務を遂行するために必要な看護実践能力の獲得・維持向上および看護職の学習に対する要望を支援することを目的とする。

看護部教育体系



認定看護師の紹介

当院では、より質の高い看護の提供ができるよう認定看護師の資格取得にも力を入れています。委員会活動や医療のメンバーとして院内を組織横断的に活動し、看護ケアの質向上・チーム医療の推進に貢献しています。また、地域での活動も積極的に行っています。

現在、9分野12名の認定看護師が活動しています。

【認定看護師紹介】

認定分野	人数	認定看護師名
小児救急看護	3名	梶原 多恵、橋本 優子、伊與田 久美子
脳卒中リハビリテーション看護	1名	岩永 妙
集中ケア	1名	川崎 久美子
救急看護	1名	井筒 隆博
感染管理	1名	中川 祐子
がん化学療法看護	1名	福永 聡
摂食・嚥下障害看護	2名	最所 麻奈美、日畑 沙也加
認知症看護	1名	塩田 輝美
慢性心不全看護	1名	木原 朋香

特定行為研修修了者紹介

特定行為とは、厚生労働省が定めた施設で研修を修了した看護師が、医師の指示に基づいて作成した手順書に準じて行う「診療の補助」です。特定行為研修を修了した看護師だけが実践可能です。メリットは、常に患者さんのそばにいる看護師が、患者さんの状態に応じ、迅速かつタイムリーに対応できることです。

特定行為区分	特定行為	特定行為研修修了者			
		横井俊博	野上寛治	木下章子	高橋沙里奈
呼吸器(気道確保に係るもの)関連	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	○		○	
	侵襲的陽圧換気の設定の変更	○	○	○	
呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	非侵襲的陽圧換気の設定の変更	○	○	○	
	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整	○	○	○	
	人工呼吸器からの離脱	○	○	○	
呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連	気管カニューレの交換				○
ろう孔管理関連	胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換				○
	膀胱ろうカテーテルの交換				
栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理)関連	中心静脈カテーテルの抜去	○		○	
栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連	末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入	○		○	
創傷管理関連	褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去				○
	創傷に対する陰圧閉鎖療法				
動脈血液ガス分析関連	直接動脈穿刺法による採血	○		○	
	橈骨動脈ラインの確保	○		○	
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整		○		
	脱水症状に対する輸液による補正	○	○		○
循環動態に係る薬剤投与関連	持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整		○		
	持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整		○		
	持続点滴中の降圧剤の投与量の調整		○		
	持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整		○		
	持続点滴中の利尿剤の投与量の調整		○		
精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	抗けいれん剤の臨時の投与	○			
	抗精神病薬の臨時の投与				
	抗不安薬の臨時の投与				

スタッフ紹介



看護部長
高瀬 真弓
たかせ まゆみ



- (左上から)
- ・山本 優子（医療安全管理担当課長）
 - ・津村 礼子（教育担当・看護職員業務改善担当係長）
 - ・塩田 輝美（認知症ケア・病床管理担当係長/認知症看護認定看護師）
 - ・中川 祐子（感染管理担当係長/感染管理認定看護師）
- (左下から)
- ・川崎 久美子（副看護部長/ベッドコントロール担当課長/集中ケア認定看護師）
 - ・梶原 多恵（副看護部長/小児救急看護認定看護師/認定看護管理者）
 - ・高瀬 真弓（看護部長/認定看護管理者）
 - ・吉永 友香（副看護部長）
 - ・塩田 美樹（副看護部長）

地域医療連携室

地域医療連携室

地域医療連携室のご紹介

地域医療連携室では、患者さんが住み慣れた地域で安心して生活ができるよう地域の医療機関・福祉施設などの関係機関と緊密に連携し、良質な医療の提供が行えるよう調整・連絡を行っています。また、地域医療連携室内に「前方支援」「後方支援」「患者支援」の3部門を設置しており、各部門の担当者が迅速に「連携」や「支援」が行える

ように体制を整えています。

高齢化が進む中で医療相談のニーズも高まっています。当院では医療相談室を設置し療養上のお悩み、療養生活上の妨げになる問題（経済的なこと、受診に関すること、療養環境など）について、専門的に相談に応じる体制を整えています。

地域医療連携室のスタッフ

管理スタッフ

地域医療連携室長(医師)

津田 有輝

つだ ゆき

地域医療連携推進担当課長(看護師)

吉國 佐和子

よしくに さわこ

担当スタッフ

前方連携

- 医療機関からの診察や高額医療機器共同利用(C T・MR I など)予約受付
- 患者さんに関する情報提供依頼への対応
- 紹介・逆紹介など地域医療連携に関するデータ管理

- 連携医療機関の登録に関する業務
- 病院の広報・渉外に関する業務
- 救急紹介患者さんの受入れ調整

事務職

地域医療連携推進担当係長

千々和 秀人

ちぢわ ひでと

事務職

地域医療連携推進担当係長

大庭 光司

おおば こうじ

事務職・主任

倉岡 秀幸

くらおか ひでゆき

事務職

永末 明日香

ながすえ あすか

事務職

畠中 千尋

はたなか ちひろ

事務職

石田 友美

いしだ ともみ

事務職

山田 理恵

やまだ りえ

事務職

富田 めぐみ

とみた

事務職

小林 美香

こばやし みか

後方連携

- 転院に関するご相談・連絡調整
- 退院後の在宅医療・介護に関するご相談
- 退院後の施設入所に関するご相談

看護師

地域医療連携推進担当係長

上村 亜希子

うえむら あきこ

看護師・主査

西田 ゆかり

にしだ

看護師

高尾 公子

たかお きみこ

看護師

鈴木 由紀

すずき ゆき

看護師

中村 桃子

なかむら ももこ

看護師

川原 恵美子

かわはら えみこ

社会福祉士・主任

外山 陽子

とやま ようこ

社会福祉士・主任

野口 佳絵

のぐち かえ

社会福祉士

戸井 佐知子

とい さちこ

患者支援

- 患者さんの状況に応じた各種医療費助成制度の利用に関するご相談
- 患者さんやご家族が抱える社会的・心理的・経済的な問題に関するご相談
- 予定入院患者さんに関する状況把握・不安要素の聞き取り・問題点の抽出などの対応
- 児童虐待ケースの状況把握・援助方針などの進行管理・関係機関との連絡調整

看護師

地域医療連携推進担当係長

三淵 浩子

みぶち ひろこ

看護師

地域医療連携推進担当係長

立石 美枝子

たていし みえこ

看護師・主査

植田 啓子

うえだ けいこ

看護師・主査

田中 智子

たなか ともこ

看護師

伏下 みき

ふした

社会福祉士・主任

山下 智子

やました ともこ

地域医療連携室へのご用命

☎フリーダイヤル：0120-41-6565

「在宅療養後方支援病院」のご案内

当院では診療所の先生方が在宅加療されている患者さん(原則として「在宅療養指導管理料」を算定されている患者さん)が、急性期医療を必要とする場合は、入院を含め24時間対応いたします。なお、やむをえず当院で入院加療が行えない場合は、当院から他の医療機関へのご紹介をいたします。

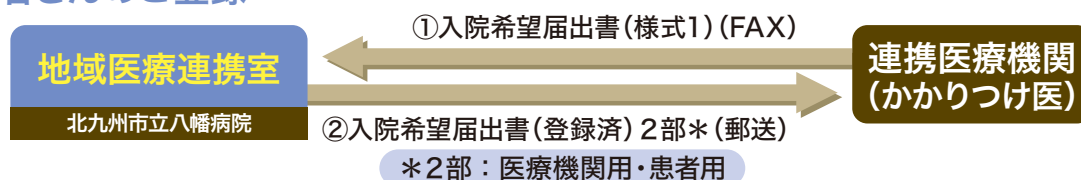
在宅療養後方支援の体制



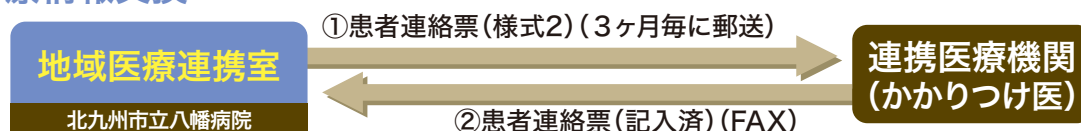
* 入院希望患者登録される際は、以下の点にご留意ください。

- 以下の在宅管理料を算定されている患者さんが対象になります。
在宅時医学総合管理料・特定施設入居時等医学管理料・在宅がん医療総合診療料
在宅療養指導管理料(在宅自己注射指導管理料を除く)を入院前月又は入院月に算定
- 1人の患者さんが複数病院の入院希望登録は行えません。
- 入院時に在宅患者緊急入院加算を算定します。(2,500点 入院時1回のみ)

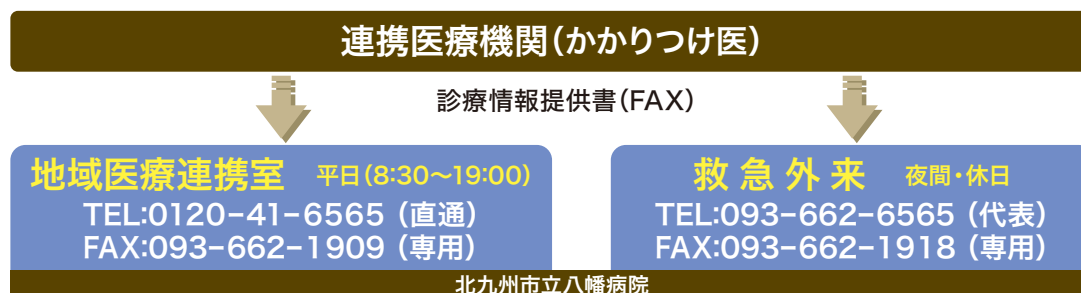
1. 患者さんのご登録



2. 診療情報交換



3. 診療のご依頼



お問い合わせ先: 北九州市立八幡病院 医療連携室 平日(8:30~17:00) TEL: 093-662-0990(連携室直通)

病院概要・フロー図
令和8年度地域医療従事者研修プログラム

病院概要

概要

名 称	北九州市立八幡病院			
所 在 地	〒805-8534 福岡県北九州市八幡東区尾倉二丁目6番2号			
電 話 番 号	TEL 093-662-6565(代表) FAX 093-662-1796			
開 設 年 月 日	平成31年4月1日			
院 長	岡本 好司			
副 院 長	天本 正乃 / 岡部 聡 / 田崎 幸博			
看 護 部 長	高瀬 真弓			
事 務 局 長	瀬戸口 誠			
開 設 者	地方独立行政法人 北九州市立病院機構			
理 事 長	中西 洋一			
構 造	地上7階(屋上にヘリポート)、鉄骨造(免震構造)			
施 設 概 要	延床面積 約28,600㎡ 敷地面積 約24,000㎡			
病 床 数	350床(内訳) 一般病床:336床、ICU:6床、HCU:8床			
職 員 数	737人(パート含む 令和8年4月1日現在)			
	医師(歯科医師含む):92人	臨床工学技士:8人	視能訓練士:1人	診療情報管理士:5人
	看護師(準看護師含む)393人	歯科衛生士:2人	社会福祉士:4人	事務:82人
	看護補助者:30人	理学療法士:13人	保育士:7人	
	薬剤師:26人	作業療法士:9人	心理士:2人	
	診療放射線技師:23人	言語聴覚士:3人	子ども療養支援士:1人	
	臨床検査技師:27人	管理栄養士:6人	救急救命士:3名	

標榜診療科

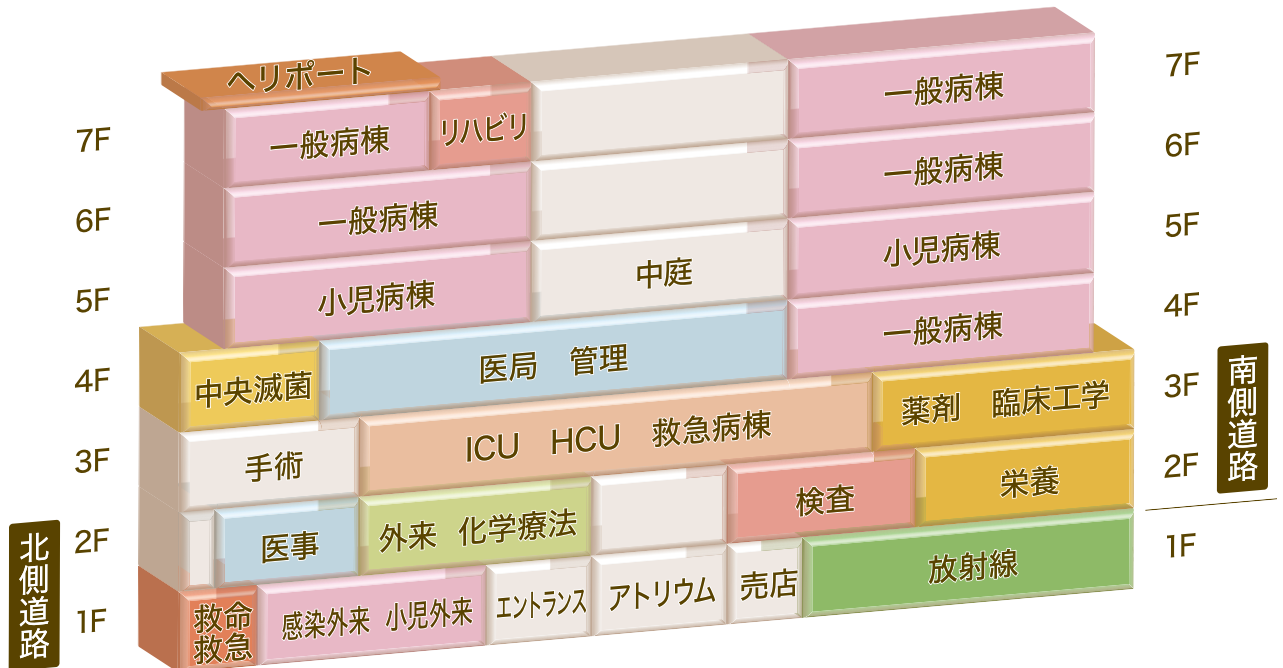
・内科	・消化器外科	・小児外科	・泌尿器科	・精神科
・呼吸器内科	・呼吸器外科	・脳神経外科	・婦人科	・歯科
・循環器内科	・肝臓外科	・整形外科	・眼科	・救急科
・小児科	・胆のう外科	・リハビリテーション科	・耳鼻咽喉科・頭頸部外科	・臨床検査科
・小児血液・腫瘍内科	・脾臓外科	・形成外科	・放射線科	
・外科	・内視鏡外科	・皮膚科	・麻酔科	

学会等施設認定

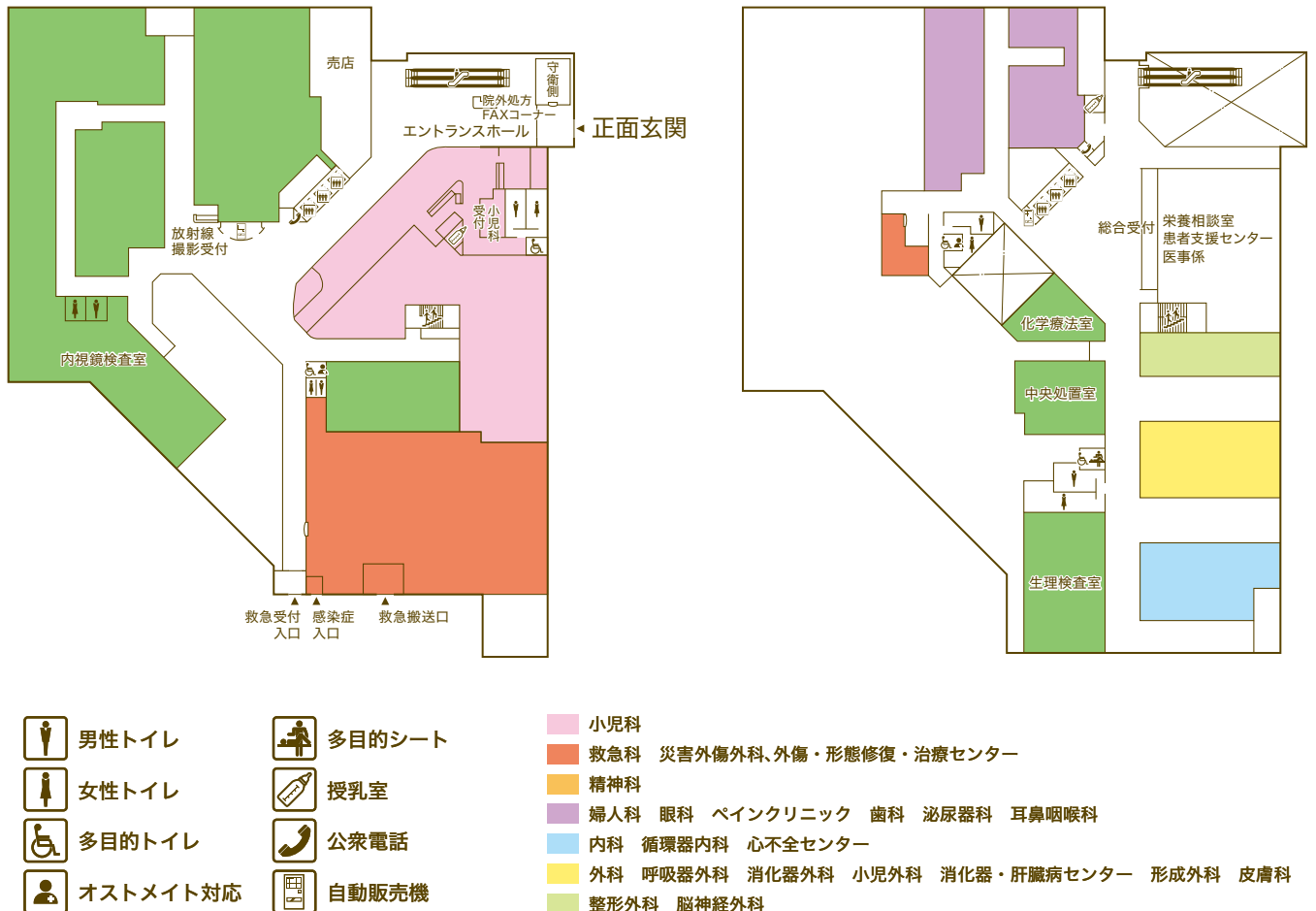
- ・福岡県救急病院認定(救急告示病院)
- ・原子力災害医療協力機関
- ・医療被ばく低減施設
- ・指定自立支援医療機関(育成医療・厚生医療)心臓脈管外科 ※障害者総合支援法第59条第1項に基づく
- ・指定自立支援医療機関(育成医療・厚生医療)整形外科 ※障害者総合支援法第59条第1項に基づく
- ・指定自立支援医療機関(育成医療・厚生医療)形成外科 ※障害者総合支援法第59条第1項に基づく
- ・指定自立支援医療機関(精神通院医療) ※障害者総合支援法第59条第1項に基づく
- ・児童福祉法第19条の9第1項の規定による 指定小児慢性特定疾病医療機関
- ・生活保護法指定医療機関(内科)
- ・生活保護法指定医療機関(歯科)
- ・難病指定医療機関 ※難病の患者に対する医療等に関する法律第14条第1項に基づく
- ・労災保険指定医療機関(外科後処置)
- ・福岡県集団検診協議会検診精密検査実施医療機関(胃がん・子宮がん・肺がん・乳がん・大腸がん・肝臓がん・骨粗しょう症・前立腺がん)
- ・学校心臓検診精密検査医療機関
- ・福岡県肝疾患専門医療機関
- ・結核指定医療機関 ※感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第38条に基づく
- ・毒ガス障害者医療・健康診断 指定医療機関(広島県)
- ・第一種協定指定医療機関
- ・第二種協定指定医療機関
- ・日本小児総合医療施設協議会(JACHRI)会員施設(小児病棟型)
- ・地域リハビリテーション協力機関
- ・NCD施設会員登録証(外科領域)
- ・一次脳卒中センター
- ・日本内科学会研修連携施設
- ・日本小児血液・がん学会専門医研修施設(九州近郊小児がん研修施設群※子施設)
- ・日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
- ・日本医学放射線学会画像診断管理認証施設
- ・認定臨床微生物検査技師制度協議会研修施設
- ・日本呼吸器学会関連施設
- ・非血縁者間造血幹細胞移植認定診療科
- ・日本プライマリケア学会認定研修施設
- ・一般社団法人日本胆道学会 日本胆道学会指導施設
- ・日本外傷学会外傷専門医研修施設
- ・非血縁者間骨髄採取認定施設
- ・日本泌尿器科学会専門医教育施設関連教育施設
- ・日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・日本小児外科学会専門医制度教育関連施設
- ・日本神経学会准教育施設
- ・日本循環器学会専門医研修施設(旧制度)
- ・日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
- ・日本病理学会研修登録施設
- ・日本大腸肛門病学会専門医関連施設
- ・九州・沖縄ブロック小児がん連携病院
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・日本がん治療認定機構認定研修施設
- ・日本専門医機構専門医制度専門研修プログラム認定施設(小児科領域)
- ・日本専門医機構救急科エキスパート研修プログラム認定施設
- ・日本肝臓学会認定施設
- ・日本皮膚科学会認定専門医研修施設(一般研修施設)
- ・日本小児科学会小児科専門医研修施設
- ・小児科専門医研修支援施設
- ・日本臨床栄養代謝学会NST稼働施設
- ・日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設
- ・日本消化器病学会認定施設
- ・医療薬学専門薬剤師研修施設(連携施設)
- ・日本高血圧学会高血圧研修施設
- ・日本血栓止血学会認定施設
- ・日本腹部救急医学会腹部救急認定医・教育医制度認定施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設
- ・日本超音波医学会超音波専門医研修施設
- ・久留米大学教育関連診療科
- ・日本消化器内視鏡学会JED Project参加施設
- ・日本整形外科学会専門医研修施設
- ・日本小児神経学会 小児神経専門医研修認定施設関連施設
- ・日本形成外科学会認定医研修施設(地域医療研修病院)
- ・日本脳神経外科学会専門医関連施設

フロアー図

全面案内図



外来案内図(1階～2階)



北九州市立八幡病院 地域医療従事者研修 令和8年度 研修プログラム

オンラインで研修を開催しています。多数の皆様のご参加をお待ちしています。

開催時間：18:00～18:30(18:50)

	月日	テーマ	講師		申込QRコード
1	5月21日 (木曜日)	前立腺肥大症について	泌尿器科 主任部長	松本 博臣	
2	6月18日 (木曜日)	コロナ収束後の感染対策	感染管理認定看護師	中川 祐子	
3	7月16日 (木曜日)	誤嚥を予防するには	摂食・嚥下障害看護認定看護師	最所 麻奈美 日畑 沙也加	
4	7月28日 (火曜日)	せん妄は多臓器不全？ ～その不穏“こころ”ではなく体の異常かも～	集中ケア認定看護師	川崎 久美子	
5	8月20日 (木曜日)	在宅・施設での急変対応	救急看護認定看護師	井筒 隆博	
6	9月17日 (木曜日)	認知症患者さんへの服薬管理	認知症看護認定看護師	塩田 輝美	
7	10月15日 (木曜日)	安全・安心・安楽なトランスファー	脳卒中リハビリテーション看護認定看護師	岩永 妙	
8	11月19日 (木曜日)	骨粗鬆症について	整形外科 主任部長	目貴 邦隆	
		転ばないためには ～在宅や施設で出来る体操～	リハビリテーション技術課 理学療法士	坂口 航	
9	12月17日 (木曜日)	心不全が悪化しないために日常生活で 気を付ける事	慢性心不全看護認定看護師	木原 朋香	
10	1月21日 (木曜日)	当院での栄養管理	管理栄養士	秀島 尚子	
11	2月18日 (木曜日)	小児のフィジカルアセスメント	小児救急看護認定看護師	橋本 優子	
		小児患者への服薬支援と 吸入デバイス指導について	薬剤師	毎熊 里奈	
12	3月18日 (木曜日)	基礎から学ぶACP	がん化学療法看護認定看護師	福永 聡	

※都合により開催日時やテーマは変更する場合がございますのでその際はご了承下さい。



北九州市立八幡病院
医療従事者向け研修会事務局（地域医療連携室内）
TEL（093）662-6565（代表）



地方独立行政法人 北九州市立病院機構
北九州市立八幡病院

X(旧Twitter)



Facebook



Instagram

